

**PDMe** プロジェクト名：ナカワ職業訓練校プロジェクト 実施期間1997年5月20日～2002年5月19日  
 対象地域：ウガンダ国カンパラ市 ターゲットグループ：ナカワ職業訓練校指導員、訓練生  
 作成：2001年11月 作成者：終了時評価調査団

プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
(上位目標) ウガンダの産業、工業界の求める技能労働者の需要を満たす。	1 産業界での雇用	1.雇用調査	
(プロジェクト目標) ナカワ職業訓練校において、各分野（機械、電気、溶接、板金、自動車、電子、木工）での産業、工業界の求める技術者が養成される。	1.a 同校への募集者数 1.b 学生の成績 1.c 同校卒業生の能力 1.d 同校卒業生数 1.e 卒業生の雇用状況	1.a 同校資料 1.b 同校による試験及び評価 1.c DIT国家試験成績 1.d 同校資料 1.e 卒業生の追跡調査	・教育・スポーツ省による職業訓練拡充が継続して実施される。 ・同校に対する財政支援が継続される。 ・産業界が訓練を受けた者を雇用できる。
(成果) 1 各分野の職業訓練に必要な体制が整備される。 2 各分野の職業訓練指導員の能力が、向上する。 3 各分野の養成訓練（昼間、夜間）、向上訓練の訓練コース内容が設定され、適切に実施される。徒弟訓練がDITの要請に基づき適切に実施される。	1.a 同校職員数 1.b 訓練教材の据えつけ状況 1.c 訓練機材の利用状況 2 職業訓練指導員の技術レベルの向上 3 訓練コース運営実績	1.a 同校資料 1.b プロジェクト活動記録 1.c 訓練機材の利用記録 2 専門家による職業訓練指導員チェックリスト 3 プロジェクト活動記録	・特に、訓練校の運営が保証できるように、養成訓練コースに十分な数の学生が入学する。 ・カリキュラムが産業界のニーズに合致している。
(活動) 1-1 訓練に必要な人員を確保する。 1-2 学校運営システムを確立する。 1-3 インカムジェネレーション活動を実施する。 1-4 委員会制度により学校を運営する。 1-5 訓練に適した機材を選定し据え付ける。 1-6 訓練機材の適切な保守管理を行う。  2-1 各分野の職業訓練指導の方法を評価し改善する。 2-2 機材を活用した実習を導入する。 2-3 訓練用教材を作成する。  3-1 企業のニーズを把握しコース内容を決定する。 3-2 カリキュラム、シラバスを作成・改定する。 3-3 テキストを作成、選択する。 3-4 訓練生を募集する。 3-5 企業実習に適した企業を選択する。 3-6 コース評価を行う。	(投入) 1.ウガンダ側 (1) 訓練校の土地 (2) フルタイム・カウンターパート割当 (3) 管理要員の割当 (4) 運営予算  2.日本側 (1) 長期専門家の派遣 (2) 短期専門家の派遣 (3) 研修員の受入れ (4) 機材供与		カウンターパートが同校の職業訓練指導員として定着する。  (前提条件) ・ウガンダ政府によって同校に対する財政支援が行われる。 ・職業訓練指導員及び他の必要な要員が採用される。

## PDMの変遷

変更箇所	変更前	変更後	理由
PDM0→PDM1			
(3) 成果	3 各分野の養成訓練、向上訓練、徒弟訓練の訓練コースが設定され、適正に実施される。	3 各分野の養成訓練(昼間、夜間)、向上訓練の訓練コース内容が設定され、適切に実施される。徒弟訓練がDITの要請に基づき適切に実施される。 (下線部が修正箇所)	夜間の養成訓練をプロジェクトの活動として明確に位置付けるとともに徒弟訓練の位置付けを明確にする。
(4) 活動	追加	1-2 学校運営システムを確立する 1-3 インカムジェネレーション活動を実施する 1-4 委員会制度により学校を運営する	インカムジェネレーション活動、委員会活動によるプロジェクトの運営活動をプロジェクトの活動として明確に位置付ける。
外部条件	労働福祉省	教育・スポーツ省	職業訓練局は労働福祉省から教育・スポーツ省に移管されたため。
PDM1→PDMe			
ターゲットグループ	無し	ナカワ職業訓練校カウンターパート及び訓練生	ターゲットグループが不明確であったので、明示した。

4. 評価グリッド（調査結果表）

評価項目	調査項目	情報源	調査結果
1. 効率性	・ 専門家（長期、短期）の派遣時期、指導内容が適当であったか。	・ プロジェクト活動記録 ・ C/P からの聞き取り	・ 合計 519 人・月（2002 年 5 月計画終了時点の予定も含む） ・ 一部学科（電子、木工、板金）では、機材搬入が遅れたことから専門家派遣時期とタイミングがずれた。 ・ 一部学科（電子、自動車）では、新技術（IT、AT、EFI）のニーズに対する対応が遅れている。
	・ 何人の卒業生がウガンダのリーディングカンパニーに雇用されたか。	・ プロジェクト活動記録	・ 2000 年 3 月卒業生 民間企業 40 名 官公庁 8 名 進学 3 名 未就業 16 名 不明 16 名 合計 73 名 ・ 2001 年 3 月卒業生 民間企業 55 名 進学 5 名 不明 4 名 未決定 44 名 合計 108 名 2001 年の進路は、7 月に実施された UNEB の結果がまだ発表されていないので、未決定者が多い。
	・ C/P 研修の受講者、研修時期、内容は適当であったか。研修で得た知識で技術の活用状況。	・ プロジェクト活動記録	・ C/P の人数、研修時期、研修内容は適切であった。 ・ 研修を受けた C/P45 名中 32 名は C/P として校に定着している。 ・ 研修を受けた C/P は累計で 304 人・月。 ・ 木工科では、研修を受けた C/P が退職したため、追加研修が実施された。
	・ 機材の選定、供与時期は適当であったか。その活用状況。	・ プロジェクト活動記録	・ 機材の選定、供与時期は電子、木工、板金を除き、適切であった。 ・ 機材供与は合計で 424 百万円（計画分も含む） ・ 一部学科（電子、木工、板金）では、機材の搬入が計画よりも遅れた（プロ技供与分。プロジェクト開始 1 年半後の 99 年 2 月に第 1 回搬入）。
	・ 現地業務費は有効に使われたか。	・ プロジェクト活動記録	・ 現地業務費は当初の費用目的通りに使用された。
	・ C/P の配置完了時期、その定着率	・ プロジェクト活動記録	・ 何人かの C/P 配置は計画より遅れて配置された。 ・ C/P の配置数：全 50 名(2001 年 10 月現在) ・ C/P の入れ替えが多かった。 ・ 木工科と板金科については、主要な C/P の配置が遅れた（98 年、99 年）。 ・ 機械科の C/P 1 名が欠員である。
	・ 管理要員の配置完了時期、その定着率	・ プロジェクト活動記録	・ 管理要員は予定どおり配置され、ほぼ定着した。 ・ 要員数は 32 名（2001 年 10 月現在）
	・ 校運営費が有効に使われたか。	・ 同校資料	・ 校運営費は有効に利用された。 ・ 2001 年 7 月、8 月は、輸入機器通関費が政府予算から控除され、校運営費の不足をもたらした。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C/P の技術レベルの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科計画達成状況表</li> <li>・ 専門家による C/P チェックリスト</li> <li>・ プロジェクト目標達成度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気、機械、板金、溶接各科の C/P への技術移転はほぼ終了した。</li> <li>・ 各科 C/P の能力は仕上がり像をほぼ達成している。</li> <li>・ 一部学科（電子、木工、板金）では訓練機材到着遅れのため、技術移転がやや遅れている。</li> <li>・ 電子、自動車科においては市場ニーズの変化に対応するために追加したカリキュラム等につき、技術移転がさらに必要である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練コース運営実績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト活動記録</li> </ul>	<p>① 養成訓練  <u>電気、機械、自動車、溶接科</u>  プロジェクト終了迄に 4 期生の訓練を実施し、3 回卒業生を出す。年度毎にカリキュラムの見直し等、訓練コースの改善も進められている。</p> <p><u>電子、木工、板金</u>  2002 年 5 月のプロジェクト終了迄に 3 期生の訓練を実施し、2 回卒業生を出す。</p> <p>② 向上訓練  合計 86 コースが実施され、523 名が受講した。累計時間数は 50,005 時間。  オーダーメイド型の突発的な訓練の実施が多いが、組織的にレディーメイド型の向上訓練を実施していくためにはニーズ調査、カリキュラム開発を進める必要がある。  C/P に対し、向上訓練に必要な訓練技術の移転も必要である。</p> <p>③ 徒弟訓練  DIT の要請が無く、徒弟訓練は実施されなかった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他職業訓練校との比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルゴゴ職業訓練校</li> <li>・ GTZ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期専門家  ナカワ 7 科 7 名  ルゴゴ 8 科 5 名</li> <li>・ 訓練生数（養成訓練昼間）  ナカワ 465 名（年平均 116.3 名）  ルゴゴ 830 名（年平均 118.5 名）</li> <li>・ 卒業生数（養成訓練昼間）  ナカワ 181 名（卒業率 91.9%）  ルゴゴ 411 名（卒業率 89.6%）</li> </ul> <p>ルゴゴ職業訓練校への GTZ の協力と比較すると、ほぼ同程度の投入に対し、遜色ない効果が上げられている。</p>	
2. 目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インカム活動収益の校運営費への補填状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同校資料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インカム活動による収益は委員会により決定されたルールに則って適切に校運営費に補填された。</li> <li>・ 収益金額は現在の校運営費の不足を全て充当するような金額とはなっていない。</li> <li>・ 収益金額は、消耗品経費を除いた後、50%が校運営費、50%が対象科手当として配分されている。</li> <li>・ インカム活動による収益管理情報はイントラネットにより共有化され、管理の透明性は確保されている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イン트라ネット構築による教材等情報の整備、共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト活動記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イン트라ネットが構築され、教材情報のデータベース化は進捗している。</li> <li>・ インカム活動による収益管理情報についても共有化され、全ての関係者が情報にアクセスできるようになっている。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C/P の質の向上（仕上がり像とその達成度、資格習得状況、生徒指導法の向上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ C/P への技術移転計画及び進捗状況</li> <li>・ プロジェクト目標達成度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大多数の C/P が訓練を運営・実施するために、訓練ニーズの調査分析、カリキュラム開発、専門分野の技術、機材の操作・管理、教材開発、指導技法、授業準備、訓練管理、訓練評価、訓練生の募集・選考を習得しているが、一部の C/P は、引き続き技術移転を必要としている。</li> </ul>												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の習得技術の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同校資料</li> <li>・ Trade Test 結果</li> <li>・ UNEB 結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子、電気、溶接、機械、自動車、木工、板金の分野で産業・工業界が求める技術者として必要な技能及び知識を習得することが生徒の仕上がり像である。</li> </ul> <p><u>TradeTest 合格率</u></p> <p>2000年 84.9% (16校平均 75.1%) 2001年 78.5% (4校平均 50.5%)</p> <p>同種職業訓練校と比較し、良好な合格率を達成している。</p> <p><u>UNEB 結果</u></p> <p>2000年 45.8% (3校平均 42.8%) 2001年未発表</p> <p>同種職業訓練校と遜色無い合格率である。</p>												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成/向上訓練内容の向上（質の改善、カリキュラム、教材、学会実績等）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト活動記録</li> <li>・ 企業アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成訓練の内容については、事前調査団が設定した各科の総括訓練目標を基に作成されたが、その後、各科において産業界のニーズに対応したカリキュラムの設定を行い、年々改定している。</li> <li>・ 教材は、校で独自に開発を行っている。</li> <li>・ 向上訓練については各企業のニーズにより実施されるが、アンケートの結果、訓練内容に対する満足度は高い。</li> </ul>												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成訓練への応募者数</li> </ul>	同校資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成訓練（昼間）</li> <table border="0"> <tr><td>応募者総数</td><td>1091名</td></tr> <tr><td>合格者総数</td><td>465名</td></tr> <tr><td>競争倍率</td><td>2.35倍</td></tr> </table> <li>・ 養成訓練（夜間）</li> <table border="0"> <tr><td>応募者総数</td><td>556名</td></tr> <tr><td>合格者総数</td><td>461名</td></tr> <tr><td>競争倍率</td><td>1.21倍</td></tr> </table> </ul>	応募者総数	1091名	合格者総数	465名	競争倍率	2.35倍	応募者総数	556名	合格者総数	461名	競争倍率	1.21倍
応募者総数	1091名														
合格者総数	465名														
競争倍率	2.35倍														
応募者総数	556名														
合格者総数	461名														
競争倍率	1.21倍														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同校卒業生数</li> </ul>	同校資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生数：</li> <table border="0"> <tr><td>2000年3月卒業生</td><td>73名</td></tr> <tr><td>2001年3月卒業生</td><td>108名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>181名 (91.9%)</td></tr> </table> <li>・ 中途退学者：</li> <table border="0"> <tr><td>2000年</td><td>6名</td></tr> <tr><td>2001年</td><td>10名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>16名 (8.1%)</td></tr> </table> <p>中退者率 8.1%は、他の職業訓練校と比較すると低い数字であると言える。</p> <p>中途退学の理由は経済的理由、素行不良等である。</p> </ul>	2000年3月卒業生	73名	2001年3月卒業生	108名	合計	181名 (91.9%)	2000年	6名	2001年	10名	合計	16名 (8.1%)
2000年3月卒業生	73名														
2001年3月卒業生	108名														
合計	181名 (91.9%)														
2000年	6名														
2001年	10名														
合計	16名 (8.1%)														
3. インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業在職者に対する向上訓練実施件数の増加</li> </ul>	プロジェクト活動記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2001年7月現在の向上訓練実績：</li> <table border="0"> <tr><td>コース数</td><td>86コース</td></tr> <tr><td>訓練生数</td><td>523名</td></tr> <tr><td>訓練時間数</td><td>50,005時間</td></tr> </table> </ul>	コース数	86コース	訓練生数	523名	訓練時間数	50,005時間						
	コース数	86コース													
訓練生数	523名														
訓練時間数	50,005時間														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他校指導員に対する研修の実施件数</li> </ul>	プロジェクト活動記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練指導技法 PROTS、年間訓練計画作成法等、他校指導員に対する研修実施件数実績：</li> <table border="0"> <tr><td>コース数</td><td>14コース</td></tr> <tr><td>参加者数</td><td>393名</td></tr> </table> </ul>	コース数	14コース	参加者数	393名									
コース数	14コース														
参加者数	393名														

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関との連携訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNIDO、SASAKAWA GLOBAL 2000 などの NGO からの依頼により、連携訓練を実施した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーへの配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校資料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科定員に5名の女性枠を設定している。採用の実績は以下のとおりである。 養成コース（昼間） 465名中44名（9.5%） 但し、採用の実績のある各科では以下のとおり。 電子 57名中14名（24.6%） 電気 77名中19名（24.7%） 機械 77名中 8名（10.4%） 自動車80名中 3名（3.8%） 溶接、板金科では応募者がいなかったため、実績なし</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職業訓練校との競合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校資料</li> <li>・ルゴゴ職業訓練校聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナカワ職業訓練校には寮があることから、訓練生はウガンダ全国から入校しており、一部は近隣諸国からも入校している。これに対し、ルゴゴ職業訓練校には寮が無く、カンパラ市内の訓練生が50%以上を占めている。</li> <li>・訓練生採用という視点では、ナカワ職業訓練校とルゴゴ職業訓練校の住み分けはできている。</li> </ul>
4. 妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・スポーツ省の政策と合致しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策教書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MTBF、ESIP からウガンダの教育施策のトレンドを見ると、初等教育、初等教育修了後教育が強調されており、職業訓練には特に力点が置かれていない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DIT の政策と合致しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策教書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DIT の施策はプロジェクト活動と合致している。</li> <li>・しかし、公共職業訓練校を統括する DIT の位置付けについては、教育・スポーツ省で検討中であり、明確ではない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界、工業界が訓練を受けた技能労働者を雇用できるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年卒業生の内就職した人数は48名であり、そのうち40名が民間企業に就職した。</li> <li>・2001年卒業生の内就職した人数は55名であり、そのうち41名が民間企業に就職した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の技術援助方針と合致しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策教書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材開発は、我が国のウガンダに対する援助重点項目の一つとなっている。</li> </ul>
5. 自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校運営のための経費は不足していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同校会計記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナカワ職業訓練校の運営経費は以下のとおりとなっている。（2001年迄の実績） 国家予算からの補助金 1184 訓練費収入 408 インカム活動収入 145 合計 1737百万 U.Sh 正職員給与 不明</li> <li>・国家予算からの補助金は滞りがちで、訓練費収入の内養成訓練費は低めに抑えられており、向上訓練費は業績により上下し、運営費は不足気味である。インカム活動収入による補填もあるが、他の不足分をカバーするには十分でないため、最も額の大きい国家予算からの補助金が確保される必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家予算が今後も付与されるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・スポーツ省聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・スポーツ省次官より今後も予算が配分される旨の発言があった。しかし、ウガンダの総教育予算は30%削減され、その教育予算の3%のみが職業教育訓練セクターに配分されている。</li> </ul>

<p>・国家予算が執行されているか。</p>	<p>・同校会計記録</p>	<p>・予算が確保されても、国庫の歳入不足などの原因により、執行されるかどうかは別の話である。実際にナカワ職業訓練校に対する予算執行は滞り勝ちであり、1998年に10ヶ月もの間予算の執行がなかった期間があった。2001年になってからも2ヶ月予算執行が無かった月があった。この間に臨時職員給与等は、校運営費、インカム活動収益により賄われている。</p>						
<p>・政府職員への給与は支払われているか。</p>	<p>・同校聞き取り</p>	<p>・政府職員への給与支払いは、政府より直接実施されるため、明確な記録はないが、滞りがちであることは事実であり、調査期間中も2ヶ月にわたる給与遅配があったとの説明があった。ジンジャ職業訓練校では、給与の遅配に抗議し、本年ストライキが行なわれた。</p>						
<p>・校運営費は十分であるか。</p>	<p>・同校会計記録</p>	<p>・校運営費の収入源は、養成訓練、向上訓練の訓練生からの授業料である。</p> <p>・2001年12月迄の実績は以下のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="826 696 1225 797"> <tr> <td>養成訓練授業料</td> <td>313</td> </tr> <tr> <td>向上訓練授業料</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>408百万 U.Shs.</td> </tr> </table> <p>・養成訓練授業料は安定収入であるが、教育・スポーツ省からの指導により低く抑えられており、値上げは難しい状況にある。</p> <p>・向上訓練からの収入は、その時々業績で上下し、安定しない。2000年は、UNIDO、NGOとの連携訓練で収入が大きかった。</p>	養成訓練授業料	313	向上訓練授業料	95	合計	408百万 U.Shs.
養成訓練授業料	313							
向上訓練授業料	95							
合計	408百万 U.Shs.							
<p>・インカム活動収益で校運営費の不足分を補えるか。</p>	<p>・同校会計記録</p>	<p>・同校会計記録によると現状ではインカム活動収益は校運営費の不足分を補填できているが、予算削減のため、今後はインカム活動のみで不足分を補填することは難しい。</p> <p>・2001年12月迄の実績は145百万U.Shs.</p> <p>・インカム活動収益は材料費、消耗品代などの必要経費を差し引いた後、校と各科で等分される。校の分は、運営費の補填として施設費、設備費、文房具代、会議費等に充当され、各科の分は講師等の収入となっている。</p>						
<p>・収支管理は適正になされているか。</p>	<p>・同校会計聞き取り</p>	<p>・全ての勘定は政府、教育・スポーツ省による会計監査の対象となっている。</p> <p>・国家予算からの補助金：支払いは校からの依頼で教育・スポーツ省が実施している。年度（毎年7月～翌年6月）末にバランスシートを作成し、報告している。</p> <p>・校運営費：訓練費収入は校の管理する口座に入金し、運営費が支出される。支出は、校が管理している。年度毎に会計報告を教育・スポーツ省に提出している。</p> <p>・インカム活動：インカム活動収入は、校の管理するインカム活動口座に入金し、支出は校が管理している。入金、支出ともにイントラネットにデータを入力しており、関係者がアクセスできるようになっている。</p>						

<p>・教育・スポーツ省により、引き続き指導員及び管理要員が確保されるか。</p>	<p>・教育・スポーツ省聞き取り ・ルゴゴ職業訓練校</p>	<p>・教育・スポーツ省は 2000/2001 年度で 9 名の正職員を採用し、2001/2002 年度には 10 名を採用するとしており、これが実現すると正職員数は 26 名となる。</p> <p>・現在・スポーツ省は同校採用職員の給与・手当等を負担しており、今後も継続するとしている。</p> <p>・ルゴゴ職業訓練校との比較</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>ナカワ 指導員</td> <td>正職員</td> <td>17 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>校採用職員</td> <td>33 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>50 名</td> </tr> <tr> <td>管理</td> <td>正職員</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>校採用職員</td> <td>27 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>32 名</td> </tr> </table> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>ルゴゴ 指導員</td> <td>正職員</td> <td>35 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>校採用職員</td> <td>27 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>62 名</td> </tr> <tr> <td>管理</td> <td>正職員</td> <td>6 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>校採用職員</td> <td>9 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>15 名</td> </tr> </table>	ナカワ 指導員	正職員	17 名		校採用職員	33 名		合計	50 名	管理	正職員	5 名		校採用職員	27 名		合計	32 名	ルゴゴ 指導員	正職員	35 名		校採用職員	27 名		合計	62 名	管理	正職員	6 名		校採用職員	9 名		合計	15 名
ナカワ 指導員	正職員	17 名																																				
	校採用職員	33 名																																				
	合計	50 名																																				
管理	正職員	5 名																																				
	校採用職員	27 名																																				
	合計	32 名																																				
ルゴゴ 指導員	正職員	35 名																																				
	校採用職員	27 名																																				
	合計	62 名																																				
管理	正職員	6 名																																				
	校採用職員	9 名																																				
	合計	15 名																																				
<p>・訓練を受けた C/P が定着するか。</p>	<p>・同校よりの聞き取り</p>	<p>・海外で研修を受けた C/P は、45 名中 32 名が定着している (71.1%)。</p> <p>・50 名の C/P の内、政府が雇用する正職員は 16 名にすぎず、残りは訓練校の校採用職員であるが、新たに 10 名の正職員の採用が予定されているため、ある程度の定着が見込める。</p>																																				
<p>・施設、機材の保守管理及び消耗品に係る経費の蓄えはあるか。</p>	<p>・同校よりの聞き取り</p>	<p>・インカム活動による若干の蓄えはあるが、政府予算がなければ、現在の収入では、施設、機器、機材、消耗品経費をまかなうことはできない。</p>																																				
<p>・各科の C/P は、校の情報を共有することができるか。</p>	<p>・同校よりの聞き取り</p>	<p>・本年のイントラネット整備により、各科の有資格者がデータベースにアクセスできるようになり、情報共有が進んだ。</p>																																				
<p>・委員会方式による校運営は軌道に乗っているか。</p>	<p>・同校よりの聞き取り</p>	<p>・校運営は 1998 年より委員会方式で実施されている。当初は 9 委員会であったが、現在は、以下の 6 委員会が設置されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校運営委員会</li> <li>② 訓練生管理委員会</li> <li>③ 安全衛生委員会</li> <li>④ 訓練機材委員会</li> <li>⑤ 訓練プロモーション委員会</li> <li>⑥ 校外活動委員会</li> </ol> <p>・議長は副校長が務め、科長、訓練マネージャー、会計、日本人専門家が出席、校長とチーフ・アドバイザーはオブザーバー参加している。</p> <p>・運営はウガンダ側が主導して行なわれるようになっており、従来は月に 1 回の定期開催であったが、現在は必要に応じ随時活発に開催されている。</p>																																				



プロジェクト名：ナカワ職業訓練校プロジェクト

実施期間：1997年5月20日～2002年5月19日

対象地域：ウガンダ国カンバラ市

ターゲットグループ：ナカワ職業訓練校指導員、訓練生

作成者： 終了時評価調査団

作成日 2001年11月

プロジェクトの要約	効率性			有効性			インパクト			妥当性			自立発展性		
	調査項目	結果	重要度	調査項目	結果	重要度	調査項目	結果	重要度	調査項目	結果	重要度	調査項目	結果	重要度
<p>上位目標 ウガンダの産業、工業界の求める技能労働者の需要を満たす。</p> <p>プロジェクト目標 ナカワ職業訓練校において各分野（機械、電気、溶接、板金、自動車、電子、家具製作）で、産業、工業界の求める技術者が養成される。</p>				調査項目	結果	重要度	リーディングカンパニーの在職者に対する向上訓練の実施	+	高	国家政策と合致している	-	高	国家予算が今後も付与される	+	高
				インカム活動収益の校運営費への補填	+	高	他校指導員に対する研修の実施	+	中	教育・スポーツ省の職業訓練政策と合致している	-	高	インカム活動収益で校運営費の不足分を補える	+	高
				イントラネット構築による教材等情報の整備、共有化	+	中	他機関との連携訓練	+	高	産業界、工業界が訓練を受けた技能労働者を雇用	+	中	教育・スポーツ省により引き抜き指導員及び管理員が確保される	+	高
				C/Iの質の向上	+	高	ジェンダー配慮	+	中				訓練を受けたC/Iが定着する	+	高
				生徒の習得技術の向上	+	高	他校への影響	+	中				施設、教材の保守管理及び消耗品に係る経費の蓄え	+	中
				職業訓練コース内容の向上	+	中									
<p>成果</p> <p>1 各分野の職業訓練に必要な体制が整備される。</p> <p>2 各分野の職業訓練指導員の能力が、向上する。</p> <p>3 各分野の養成訓練（昼間、夜間）、向上訓練の訓練コース内容が設定され、適正に実施される。 徒弟訓練が DIT の要請に基づいて適切に実施される日</p>	調査項目	結果	重要度												
	専門家（長期、短期）の派遣時期、期間、研修内容。	-	高												
<p>投入</p> <p>1. ウガンダ側</p> <p>(1) 訓練校の土地</p> <p>(2) フルタイム・カウンターパート割当</p> <p>(3) 管理要員の割当</p> <p>(4) 運営予算</p> <p>2. 日本側</p> <p>(1) 長期専門家の派遣</p> <p>(2) 短期専門家の派遣</p> <p>(3) 研修員の受け入れ</p> <p>(4) 教材供与</p> <p>(5) 現地業務費</p>	C/I 研修の受講者、研修内容の適切性	+	高												
	教材の選定、供与時期の適切性	+	高												
	C/I の配置	+	高												
	管理要員の配置	+	中												
	現地業務費の有効な利用	+	中												
	運営費の有効な利用	+	中												





7. 校運営費収支状況表

ナカワ職業訓練校運営費収支状況表  
(収入)

2001年10月末現在  
Uganda Shilling(1Ush= ¥0.07)

費目	年度※	1997/1998	1998/1999	1999/2000	2000/2001	合計	%
		1997.7-1998.6	1998.7-1999.6	1999.7-2000.6	2000.7-2001.6		
政府 予算	政府補助金 Capital Development Release	148,325,000	207,578,000	364,261,000	227,469,000	947,633,000	58.6%
	寮費、寮食費補助 Recurrent Expenditure Release	32,666,000	68,610,000	59,396,000	39,116,000	199,788,000	12.4%
						1,147,421,000	71.0%
校 収入	訓練校勘定(養成・向上訓練授業料) Basic Training Course Tuition Fee & Up-grading fee	18,225,000	86,486,000	117,734,000	106,158,000	328,603,000	20.3%
	インカム活動 Income Generation Activities	0	25,718,600	52,053,705	62,918,390	140,690,695	8.7%
						469,293,695	29.0%
収入合計(A)		199,216,000	388,392,600	593,444,705	435,661,390	1,616,714,695	

(支出)

Construction & Building	111,649,000	76,156,000	180,000,000	29,025,000	396,830,000	24.8%
Other fixed Assets	22,150,000	3,020,000	3,513,000	0	28,683,000	1.8%
Local Salaries & Wages	11,814,000	35,167,000	41,765,000	77,638,000	166,384,000	10.4%
Allowances Other than Salaries	4,884,000	27,884,000	34,168,000	31,340,000	98,276,000	6.1%
Training	2,677,000	10,423,000	5,911,000	58,677,000	77,688,000	4.9%
Vehicle Operation & Maintenance	6,645,000	65,031,000	24,244,000	24,802,000	120,722,000	7.5%
Consumables/Food stuffs	23,161,000	96,668,000	142,985,000	135,215,000	398,029,000	24.9%
Utilities	0	8,399,000	37,242,000	746,000	46,387,000	2.9%
Other goods & Services	0	15,909,000	45,616,000	30,349,000	91,874,000	5.7%
Staff Welfare & Entertainment	2,405,000	2,600,000	3,600,000	3,450,000	12,055,000	0.8%
Materials & Supplies	4,500,000	35,500,000	56,400,000	25,300,000	121,700,000	7.6%
Advertising & Public relations	0	1,537,000	3,759,000	3,400,000	8,696,000	0.5%
Office Expenses	5,500,000	5,500,000	7,400,000	5,300,000	23,700,000	1.5%
Maintenance of Buildings, Grounds & Equipment	0	1,937,000	4,705,000	3,022,500	9,664,500	0.6%
支出合計(B)	195,385,000	385,731,000	591,308,000	428,264,500	1,600,688,500	
収支(A-B)	3,831,000	2,661,600	2,136,705	7,396,890	16,026,195	

※ウガンダ会計年度(7月~6月)で区切り算出

8. 専門家派遣実績

専門家派遣実績

区分		指導科目	氏名	出身機関	派遣期間		
					開始	終了	M/M
長期	1	チーフアドバイザー	高見 利輝	雇用能力開発機構	1997.6.4	2000.6.3	36
	2	チーフアドバイザー	坂本 宏	君津職業能力開発促進センター	2000.5.19	2002.5.19	24
	3	訓練管理	川島 徹	雇用能力開発機構	1997.6.4	1999.9.3	27
	4	業務調整	井上 高司	シーディーシーインターナショナル	1997.6.29	1999.6.28	24
	5	業務調整	牧野 丞	フォーラムツーワン	1999.11.19	2002.5.19	30
	6	電子	平川 光則	無	1997.12.27	2000.12.26	36
	7	電気	藤田 正広	富山職業能力開発促進センター	1997.10.22	2000.3.31	29
	8	電気・電子	佐藤 一晃	京都職業能力開発促進センター	2000.3.26	2002.3.25	24
	9	機械	鈴木 茂勝	宮城職業能力開発短期大学校	1997.5.28	1999.5.27	24
	10	機械	野澤 征夫	栃木職業能力開発促進センター	1999.5.12	2002.5.19	36
	11	自動車	佐々木勝男	職業能力開発大学校研修研究センター	1997.12.27	2000.3.31	27
	12	自動車	竹野 利夫	千葉職業能力開発促進センター	2000.3.16	2002.3.15	24
	13	木工	宝来 利憲	京都職業能力開発短期大学校	1997.10.22	2000.10.21	36
	14	木工	山川 敏彦	静岡職業能力開発促進センター	2000.10.5	2002.5.19	19
	15	板金	飯田 洋丈	青森職業能力開発促進センター	1997.10.22	2000.10.21	36
	16	溶接	楨 寿男	香川職業能力開発促進センター	1997.10.22	1999.10.21	24
	17	溶接	後藤 哲	京都職業能力開発促進センター	1999.10.11	2002.5.19	31
小計							488
短期	1	指導技法	上田 耕治	無	1998.10.13	1999.3.11	5
	2	塗装	久保田潤二	ポリテクセンター新潟	1999.6.23	1999.9.22	3
	3	業務調整	木村 伸一	無	1999.7.8	1999.11.30	5
	4	指導技法	上田 耕治	無	1999.10.15	2000.2.14	4
	5	配管	比嘉良美津	沖縄職業能力開発促進センター	2000.5.15	2000.6.25	1
	6	視聴覚技法	菊地 真	雇用能力開発促進センター栃木	2000.11.13	2001.1.13	2
	7	冷凍空調	林 宏達	関東職業能力開発促進センター	2000.11.13	2001.1.13	2
	8	訓練管理	小池 慎介	千葉職業能力開発促進センター	2001.3.7	2001.3.17	0
	9	訓練管理	近藤ひろ子	生涯職業能力開発センター	2001.3.7	2001.4.7	1
	10	ネットワーク構築	星野 峯男	関東職業能力開発促進センター	2001.3.7	2001.4.7	1
	11	非破壊検査	S.M.Hussein	エジプト中央冶金研究所	2001.10.20	2001.11.3	0
	12	ネットワークシステム	桑田 浩二	職業能力開発機構ポリテクカレッジ浜松	2001.11.14	2002.1.12	2
	13	制御センサー	河瀬 博行	雇用能力開発機構	2001.11.14	2002.1.12	2
	14	自動車板金	未定	未定			2
小計							31
合計							519

## 9. カウンターパート研修受入実績

カウンターパート研修受入実績

No.	分野	研修科目	区分	受け入れ先	研修員氏名	研修期間		
						開始	終了	M/M
1	管理部門	訓練管理セミナー（指導員）生産機械	集団	HITC	A.Tuzinde	1995年8月	1995年10月	3.0
2		訓練管理セミナー（指導員）生産機械	集団	能開大	A.Masolo	1995年4月	1995年12月	9.0
3		金属加工技術	第三国個別	エジプトCMRDI	A.Masolo	1997年9月	1997年11月	3.0
4		訓練管理セミナー	C/P	海外職業訓練協会	A.Masolo	1999年6月	1999年8月	3.0
5		職業訓練管理セミナー	集団	ハ王子国際研修センター	G.Mwesigye	2000年6月	2000年8月	2.0
6		訓練管理セミナー（指導員）電子技術	集団	能開大	G.Mwesigye	1996年4月	1996年12月	9.0
7		訓練管理セミナー（指導員）電子技術	集団	能開大	V.Awanyi	1998年4月	1998年12月	9.0
8		職業能力開発行政	C/P	労働省他	Francis X. Lubanga	1999年10月	1999年10月	0.5
9	電子科	応用電気工学	第三	ケニアJKUAT	F.Omoo	1999年2月	1999年3月	2.0
10		電子工学	C/P	能開大	F.Omoo	1999年4月	1999年12月	9.0
11		電子工学	C/P	ポリテク千葉	H.Kagezi	1998年10月	1999年3月	6.0
12		応用電気・電子	第三国集団	ケニアJKUAT	Edema P.	2001年1月	2001年3月	2.0
13		（指導員）電子工学	集団	能開大	Tumuslime R.	2001年4月	2001年12月	9.0
14		応用電気・電子	第三国集団	ケニアJKUAT	Apiile W.	2002年1月	2002年3月	2.0
15	電気科	電気工学	C/P	ポリテク千葉	Mpanga A.	1999年10月	2000年3月	6.0
16		電気工学	C/P	ポリテク千葉	Asimwe L.	2000年9月	2001年3月	6.0
17		電気工学	C/P	ポリテク千葉	Nakakande	2001年10月	2002年3月	6.0
18	機械科	（指導員）生産機械	集団	能開大	J.Katungole	1997年4月	1997年12月	9.0
19		機械工作	C/P	ポリテク千葉	Bukirwa H.	1997年9月	1998年3月	7.0
20		機械加工	C/P	ポリテク千葉	P.Kyahurwa	1998年10月	1999年3月	6.0
21		熱処理技術	第三国個別	エジプトCMRDI	Bukirwa H.	1999年9月	1999年12月	3.0
22		（指導員）機械工学	C/P	ポリテク千葉	Mugombesya	2001年10月	2002年3月	6.0
23	自動車科	（指導員）産業機械	集団	能開大	Asimwe P.	1998年4月	1998年12月	9.0
24		自動車整備	C/P	ポリテク千葉	P.Kaboobi	1998年10月	1999年3月	6.0
25		自動車整備	集団	東淀川訓練校	Madira A.	2001年4月	2001年10月	7.0
26	木工科	木材加工技術	C/P	ポリテク千葉	Mugisha H.	1998年10月	1999年3月	6.0
27		造形工学	集団	能開大	N.Robert	1999年4月	1999年12月	9.0
28		造形工学	集団	能開大	Ssenyondo M.	2001年4月	2001年12月	9.0
29	板金科	板金技術	C/P	ポリテク千葉	Mwanga G.	1997年10月	1998年3月	6.0
30		板金技術	C/P	ポリテク千葉	Mafabi P.	1999年10月	2000年3月	6.0
31		一般配管施工	C/P	ポリテク千葉	Kazibwe P.	2000年9月	2001年3月	6.0
32		自動車板金	C/P	ポリテク千葉	Okello A.	2001年10月	2002年3月	6.0
33	溶接科	溶接技術	第三国集団	エジプトCMRDI	Mayanja F.	1999年9月	1999年11月	2.0
34		溶接技術	C/P	ポリテク千葉	Wanyamma I.	1999年10月	2000年3月	6.0
35		溶接技術	C/P	ポリテク千葉	Namiisi S.	2000年9月	2001年3月	6.0
36		溶接技術	第三国個別	エジプトCMRDI	Baita M.	2000年9月	2000年11月	2.0
37		ガス・アーク溶接	C/P	ポリテク千葉	Mayanja F.	2001年10月	2002年3月	6.0
38		溶接技術	第三国個別	エジプトCMRDI	Eliachu D.	2001年9月	2001年11月	2.0
	合計							211.5
他訓練校への異動または退職者								
1	訓練部門	訓練管理セミナー	集団	HITC	Kurinamanyire	1994年10月	1994年12月	3.0
2		（指導員）電気技術	集団	能開大	Oteka	1995年4月	1995年12月	9.0
3		監督者訓練セミナー	C/P	海外職業訓練協会	Oteka	1999年1月	1999年2月	2.0
4	電子科	（指導員）視聴覚機器	集団	能開大	Kirya	1997年4月	1997年7月	4.0
5	電気科	電気技術	C/P	ポリテク千葉	Sempala	1997年10月	1998年3月	6.0
6	機械科	（指導員）生産機械	集団	能開大	Ahagana	1996年4月	1996年12月	9.0
7		熱処理技術	第三国集団	エジプトCMRDI	E.Kirungi	1999年9月	1999年12月	3.0
8	自動車科	（指導員）産業機械	集団	能開大	Mubamgizi	1997年4月	1997年12月	9.0
9		（指導員）産業機械	集団	能開大	Mukasa	1996年4月	1996年12月	9.0
10		自動車整備	集団	東淀川訓練校	KulubuyaM.	1999年10月	2000年3月	6.0
11	木工科	（指導員）木材加工	集団	能開大	Kejungu	1997年4月	1997年12月	9.0
12		（指導員）木材加工	集団	能開大	Katumba	1996年4月	1996年12月	9.0
13	溶接科	溶接	第三国集団	エジプトCMRDI	Wakabi	1995年9月	1995年10月	2.0
14		溶接	第三国個別	エジプトCMRDI	Wakabi	1996年11月	1997年4月	6.0
15		溶接技術	C/P	ポリテク千葉	Mujurizi	1997年9月	1998年3月	7.0
	合計							93.0
	総合計							304.5

10. 主な供与機材管理及び技術移転状況

主な供与機材管理及び技術移転状況

電子科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
オシロスコープ	14	実習場	済み	済み	4	3
パターンジェネレータ	6	実習場	済み	済み	3	4
ラジオトレーニングシステム	2	実習場	済み	済み	4	4
テレビトレーニングシステム	2	実習場	済み	済み	4	4
A/D-D/Aトレーニングボード	4	実習場	済み	済み	3	3
半導体トレーニングボード	8	実習場	済み	済み	3	3
パーソナルコンピュータ	21	実習場	済み	済み	4	5

電気科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
絶縁抵抗計	3	実習場	済み	済み	5	5
接地抵抗計	3	実習場	済み	済み	5	5
誘導電動機	12	実習場	済み	済み	3	4
巻線機	3	実習場	済み	済み	5	5
エアコン	7	実習場	済み	済み	5	4
シーケンス制御モデル	1	実習場	済み	済み	5	5
シーケンストレーニングボード	21	実習場	済み	済み	5	5

機械科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
旋盤	9	実習場	済み	済み	5	5
フライス盤	2	実習場	済み	済み	5	5
型削盤	1	実習場	済み	済み	4	5
ラジアルボール盤	1	実習場	済み	済み	5	5
万能工具研削盤	1	実習場	済み	済み	4	5
平面研削盤	1	実習場	済み	済み	5	5
立て削り盤	1	実習場	済み	済み	5	5
超硬工具研削盤	1	実習場	済み	済み	4	5
帯ノコ盤	1	実習場	済み	済み	5	5
電動のこぎり盤	1	実習場	済み	済み	5	5
両頭グラインダ	2	実習場	済み	済み	5	5
ビッカース硬さ試験機	1	実習場	済み	済み	5	5
シェアー硬さ試験機	1	実習場	済み	済み	5	5
直立ボール盤	1	実習場	済み	済み	5	5
車上ボール盤	2	実習場	済み	済み	4	5

技術移転の指標： 5：十分理解しているC/Pが複数いる 4：十分理解しているC/Pが1名と理解しているC/Pが1名以上いる。  
 3：理解しているC/Pが複数いる 2：理解しているC/Pが1名いる 1：理解しているC/Pがない

自動車整備科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
4柱リフト	1	実習場	済み	済み	4	5
ディストリビュータテストベンチ	1	実習場	済み	済み	4	5
サイドスリップテスト	1	実習場	済み	済み	4	5
燃料噴射ポンプテスト	1	実習場	済み	済み	4	3
ヘッドライトテスト	1	実習場	済み	済み	4	5
バルブクワ&スターモータテスト	1	実習場	済み	済み	4	5
ブレーキ&スピードテスト	1	実習場	済み	済み	4	5
マルチスコープアナライザ	1	実習場	済み	済み	4	5
シャシダイナモメータ	1	実習場	済み	済み	4	5

木工科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
ラシアルームクサットソー	1	実習場	済み	済み	3	3
帯鋸盤	1	実習場	済み	済み	3	3
リップソー	1	実習場	済み	済み	3	3
手押しカンナ盤	1	実習場	済み	済み	3	3
自動一面カンナ盤	1	実習場	済み	済み	3	3
軸傾斜横切り丸鋸盤	1	実習場	済み	済み	3	3
パネルソー	1	実習場	済み	済み	3	3
ほぞ穴加工機	1	実習場	済み	済み	3	3
多軸ボール盤	1	実習場	済み	済み	3	3
ほぞ取り盤	1	実習場	済み	済み	3	3
面取り盤	1	実習場	済み	済み	3	3
木工旋盤	1	実習場	済み	済み	3	3
ルータ盤	1	実習場	済み	済み	3	3
コーナロッキングマシン	1	実習場	済み	済み	3	1
ダブテールマシン	1	実習場	済み	済み	1	1
木工プレス	1	実習場	済み	済み	1	1
テーブルプレス	1	実習場	済み	済み	3	3
趙仕上げカンナ盤	1	実習場	済み	済み	1	1
ベルトサンダー	1	実習場	済み	済み	3	1
カンナ刃研削盤	1	実習場	済み	済み	3	3
超硬刃物研削盤	1	実習場	済み	済み	2	2
ダボ製造器	1	実習場	済み	済み	3	3

技術移転の指標： 5：十分理解しているC/Pが複数いる 4：十分理解しているC/Pが1名と理解しているC/Pが1名以上いる。  
3：理解しているC/Pが複数いる 2：理解しているC/Pが1名いる 1：理解しているC/Pがない

板金科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
スポット溶接機	1	実習場	済み	済み	4	4
プレスブレーキ	1	実習場	済み	済み	5	4
ベンディングマシン	1	実習場	済み	済み	5	4
パイプベンダ	1	実習場	済み	済み	5	4
MAG溶接機	1	実習場	済み	済み	5	4
プレス加工機	1	実習場	済み	済み	4	4

溶接科

機材名	数量	設置場所	試運転	台帳作成	技術移転状況	
					訓練に適した機材を選定し据付ができる	訓練機材の適切な保守管理ができる
ガス溶接機	1	実習場	済み	済み	5	5
アーク溶接機	12	実習場	済み	済み	5	5
MAG溶接機	4	実習場	済み	済み	4	4
TIG溶接機	2	実習場	済み	済み	4	4
MIG溶接機	1	実習場	済み	済み	4	4
スポット溶接機	1	実習場	済み	済み	4	4
シャーリングマシン	1	実習場	済み	済み	5	5

技術移転の指標： 5：十分理解しているC/Pが複数いる 4：十分理解しているC/Pが1名と理解しているC/Pが1名以上いる。  
3：理解しているC/Pが複数いる 2：理解しているC/Pが1名いる 1：理解しているC/Pがない



## 11. 各科訓練概要

### ウガンダ・ナカワ職業訓練校 各科訓練概要

#### 電子科

現代産業の基幹のひとつである電子技術を実習中心に基本から広く学び、ウガンダ産業界に貢献できる実践的電子技術者を育成することを目的に設置されたコースである。各種計測機器、実習機器により実践的な訓練を行っている。

- ・ 応募資格はOレベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. アナログエレクトロニクス（基本電子測定、ラジオ、テレビ）
  2. デジタルエレクトロニクス（組合せ回路、順序回路、マイクロプロセッサ）
  3. コンピューターシステム（ソフトウェア、ハードウェア）
- ・ 主な訓練用機材

オシロスコープ、マルチメーター、定電圧電源、ファンクションジェネレーター、ラジオトレーナー、TVトレーナー、ロジックアナライザー、コンピューター、プリント基板作成装置

#### 電気科

現代産業の基幹のひとつである電気技術を実習中心に基本から広く学び、ウガンダ産業界に貢献できる実践的電気技術者を育成することを目的に設置されたコースである。各種計測機器、実習機器により実践的な訓練を行っている。

- ・ 応募資格はOレベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. 電気配線
  2. モーター巻き線
  3. リレーシーケンス及び、PLC（Programmable Logic Controller）
  4. 冷凍空調
  5. 家庭用電気用品修理
- ・ 主な訓練用機材

電気配線実習ボード、モーター巻き線実習装置、リレーシーケンス制御実習ボード、PLC 制御実習ボード、コンピューター、冷凍空調実習装置

## 機械科

あらゆる産業の基幹となる機械技術者を育成するためのコースであり、加工技術及び理論を修得させるため各種工作機械、実験機材による実習、学科をおこなっている。

- ・ 応募資格はOレベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. 旋盤基本作業（段付き、テーパー、穴あけ、ローレット、ねじ切り作業等）
  2. フライス盤基本作業（平面、角取り、舞フライス、アリ溝加工作業等）
  3. ホブ盤による歯切り作業
  4. 研削盤作業
  5. 機械材料試験
- ・ 主な訓練用機材  
旋盤、形削り盤、スロッター、プレーナー、研削盤（平面研削盤、円筒研削盤）  
ラジアルボール盤、ホブ盤、硬さ試験機、引っ張り試験機、他

## 自動車科

自動車科では、実践的な自動車整備をできるように育成する為のコースであり、整備技術及び構造理論を習得させる為、実習機材を用いて実習・学科を行っている。

- ・ 応募資格はOレベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. 電子制御燃料噴射エンジン整備
  2. ラジエーター修理
  3. 自動車電装
  4. エンジンのオーバーホール
  5. 車体修理、スプレー
  6. 運転手のための、始業前の点検
- ・ 主な訓練用機材  
ブレーキ・スピードテスター、サイドスリップテスター、ディーゼルインジェクションポンプ、マルチスコープテスター、シャシーダイナモ、各種測定工具等

## 木工科

家具および建具の構造と製作方法を習得する。木材加工機械および工具の使用法を学習し、その保守管理技術を習得する。木製品設計ができるよう関連学科を学習する。

- ・ 応募資格は〇レベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. 木製品製作実習
  2. 器工具使用法
  3. 木工機械操作法・保守管理技術
  4. 木製品塗装法
  5. 木製品設計製図
- ・ 主な訓練用機材  
自動一面鉋盤、超仕上げ鉋盤、軸傾斜横切り盤、テーブル傾斜昇降横切り盤、角のみ盤、多軸ボール盤、ルーター、コーナーロッキングマシン、ダブルテーブルマシン、木工プレスベルトサンダー、超硬刃物研削盤、高周波式含水率計 他

## 板金科

新しく設置されたコースのひとつであり、1999年に訓練を開始した。

訓練内容は、板金工作法、配管作業、溶接作業であり幅広い知識と技能を持った技能者の養成を行っている。

- ・ 応募資格は〇レベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. 手板金、工場板金作業一般。
  2. 配管施工作業一般。
  3. ガス溶接、被覆アーク溶接、半自動溶接作業等。
- ・ 主な訓練用機材  
シャーリング、コーナーシャー、プレスブレーキ、スポット溶接機、溶接機器一般。

## 溶接科

当科は溶接技能者を養成するためのコースであり、溶接工に必要な幅広い知識と総合的な技能の修得を目指したコースである。

- ・ 応募資格は〇レベル修了
- ・ 訓練生の定員は20名
- ・ 就学期間は昼間2年、夜間2年半
- ・ 卒業時には国家技能検定試験の合格を目指す
- ・ 主な訓練内容
  1. ガス溶接
  2. 被覆アーク溶接
  3. TIG溶接（主にアルミ、ステンレスとその合金製品の溶接）
  4. MIG溶接（主にアルミ、ステンレスとその合金製品の溶接）
  5. MAG溶接（軟鋼,またはその合金の溶接）
  6. スポット溶接
  7. 応用実技（金属加工製品の製作実習）
- ・ 主な訓練用機材

シャーリングマシン、スポット溶接機、ガス溶接設備、被覆アーク溶接機、MAG溶接機、MIG溶接機、TIG溶接機等。



13. シラバス (機械科分)

NAKAWA VTI

Subjects and Training Hours

Subjects and Training Hours

Training: Basic Training

Course: Machinist and Fitter general

	Subjects	Training Hours						Total Hour
		First Year			Second Year			
		1stS	2ndS	Total	1stS	2ndS	Total	
G T S	A1. Workshop calculation	42	21	63	0	0	0	63
	A2. Business Management	0	42	42	21	0	21	63
	Subtotal	42	63	105	21	0	21	126
T T S	B1. Craft Science	21	21	42	21	0	21	63
	B2. Workshop Technology 1	21	42	63	42	0	42	105
	B3. Workshop Technology 2	21	21	42	21	0	21	63
	B4. Welding and Sheet metal processing	0	21	21	0	0	0	21
	B5. Measuring	21	21	42	0	0	0	42
	B6. Materials	21	21	42	21	0	21	63
	B7. Engineering Drawing	42	42	84	42	0	42	126
	B8. Safety and Health	21	0	21	0	0	0	21
	Subtotal	168	189	357	147	0	147	504
Theory Total		210	252	462	168	0	168	630
B P S	C1. Measuring and Inspection	22	24	46	19	0	19	65
	C2. Basic working operation	63	42	105	26	0	26	131
	C3. Basic machining work	396	258	654	260	0	260	914
	C4. Basic tool grinding	44	33	77	0	0	0	77
	C5. Forging and heat treatment	0	42	42	0	0	0	42
	C6. Welding	0	42	42	0	0	0	42
	C7. Sheet Metal Working	0	42	42	0	0	0	42
	Subtotal	525	483	1008	305	0	305	1313
A P S	D1. Applied practice	0	0	0	262	315	577	577
	Subtotal	0	0	0	262	315	577	577
Practice Total		525	483	1008	567	315	882	1890
P W A	E1. Industrial Attachment	0	0	0	0	420	420	420
	Subtotal	0	0	0	0	420	420	420
Total		735	735	1470	735	735	1470	2940

GTS: General Theoretical Study, TTS: Theoretical Technical Study

BPS: Basic Practical Study, APS: Applied Practical Study

PWA: Practical Work Assessment

Total Training Hours

7 hrs x 5 days x 42 weeks x 2 years = 2940 hours

### Annual Training Schedule in 2001/2002

NAKAWA V.T.I

		Basic Training										Machining and Fitter general										1 <sup>st</sup> Year	Remarks																																			
		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4																																		
Month	Week	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51						
Subject	Day	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	
(The person in charge)	Hour	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4
THEORY	Business (Mponye) (Mugombesya)	42	Units																				Trigonometry		Bus. Ideas Marketing		Government policies		Costing		Vacation																											
	Workshop Calculations (Kalongole)	63	Simple Arithmetic																				Logarithms		Algebra		Circle		Continued Fractions																													
	Craft Science (Kalongole) (Mugombesya)	42	Heat and its Effects																				Stress and strain		Work		Power		Energy																													
	Workshop Tech I (Kalongole)	63	Metal Cutting Lathes Tools																				Lathes work		Shaping		MILLING																															
	Workshop Tech II (Bukirwa)	42	Safety																				Fitter's Hand tools		Threading and Types		Bench work and Fitting																															
	Welding and Sheet Metal Processing (Okele)	21	Standards of measurement																				Gasping		Linear measurement		Angular measurement		Limits and fits																													
	Measuring (Kyhurwa)	42	Fundamentals of Metals and alloys																				Ferrous Metals		Non-ferrous alloys		Heat treatment																															
	Materials (Wangolobe) (Mugombesya)	42	Introduction to Drawing																				Standard lettering		Scalps		Plane Geometry		Dissection 3-dimensional drawing																													
	Engineering Drawing (Kyhurwa) (Bulala)	36	Safety and control in work (Clothing Order in the workshop)																																																							
	Safety and Health (Bukirwa)	21	Measurement (Length Planes)																				Measure of Surface Roughness		Measurement of angles																																	
	Measuring, Marking and Inspection (Kyhurwa)	46	Handling of Drilling																				Handling of milling machine		Handling of Surface grinders and Sawing machine																																	
	Basic Working Operations of instructors (all)	84	Marking out																				Hack sawing		Chipping		File finishing		Scraping		Tapping		Reaming																									
	Basic Maching Work (all of instructors)	647	Lathes work																																																							
	Welding (Sempala)	42	Measurement																				Riveting		Soldering		Task																															
	Sheet Metal Working (Okele)	42	Clothing																				Order in the workshop		Emergency control																																	
Safety and Health (Bukirwa)	21	Operations																				Heat Treatment																																				
Forging and heat treatment (Mugombesya)	42	Hand grinding																				Machine grinding		Machine grinding																																		
Basic tool grinding (Wangolobe)	77																																																									
Planned Total	1463																																																									
Implemented Total	644																																																									
Remarks		Jun. 3 Martyr's Day Jun. 8 Hero's Day										Oct. 9 Independence Day					Christmas Time					Jan. 26 Liberation Day					Mar. 8 Women's Day					Apr. 21-24 Easter May 1 May Day																										





**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	General Theoretical Study	
	Subject	Item
A1. Workshop calculation		A1.1 Units A1.2 Simple Arithmetic A1.3 Logarithms A1.4 Algebra A1.5 Percentage/Ratio A1.6 Angles and their properties A1.7 Trigonometry A1.8 Circle A1.9 Areas, Volumes and weights A1.10 Continued Fractions
A2. Business Management		A2.1 Entrepreneurial Awareness A2.2 Procedures for starting a business A2.3 Business idea and business plan preparation A2.4 Marketing A2.5 Government laws affecting small enterprises A2.6 Costing A2.7 Start up capital and book keeping A2.8 Production planning for productivity A2.9 Appreciation of technical innovation A2.10 Production practice

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Theoretical Technical Study
Subject	Item
B1. Craft Science	B1.1 Heat and Temperature B1.2 Stress and Strain B1.3 Expansion of solids, liquids and gases B1.4 Work, power and energy B1.5 Simple machines B1.6 Electricity
B2. Workshop Technology 1	B2.1 Metal Cutting and Cutting tools B2.2 Lathe work B2.3 Shaping B2.4 Milling B2.5 Grinding B2.6 Clamping components B2.7 Shaft and bearing B2.8 Gear B2.9 Machinery Installation and Servicing

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Theoretical Technical Study
Subject	Item
B3. Workshop Technology 11	B3.1 Safety B3.2 Fitter s Hand tools B3.3 Forging of Metal B3.4 Drilling machines
B4. Welding and Sheet metal processing	B4.1 Gas Welding B4.2 Arc welding B4.3 Materials for sheet metal B4.4 Tools and equipment for sheet metal B4.5 Joints B4.6 Riveting B4.7 Soldering B4.8 safety and health (sheet metal)
B5. Measuring	B5.1 Introduction B5.2 Linear measurement B5.3 Angular measurement B5.4 Gauging B5.5 Comparators B5.6 Limits and fits B5.7 Standard measuments

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Theoretical Technical Study
Subject	Item
B6. Materials	B6.1 Fundamentals of metal and alloys B6.2 Ferrous metals B6.3 Non-Ferrous metals and their alloys B6.4 Heat treatment of metals B6.5 Chemical heat treatment B6.6 Industrial materials
B7. Engineering Drawing	B7.1 Introduction to Engineering B7.2 Drawing Lines B7.3 Standard lettering B7.4 Scales B7.5 Plane geometry B7.6 Principles of tangency B7.7 Loci B7.8 Dimensioning B7.9 Introduction to three-dimensional drawings B7.10 Orthographic projections B7.11 Sectioning B7.12 Drawing of a thread B7.13 Screw/bolt connections B7.14 Welded joints B7.15 Surface finish B7.16 Assembly drawing B7.17 Reading simple production drawings B7.18 Free hand sketching

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Theoretical Technical Study
Subject	Item
<p>B8. Safety and Health</p>	<p>B8.1 Safety and control in work</p> <p>B8.2 Adjustment and order</p> <p>B8.3 Clothing</p> <p>B8.4 Sanitation</p> <p>B8.3 First aid</p>

## Syllabus Chart

## Course: Machinist and Fitter General

Study	Basic Practical Study
Subject	Item
C1. Measuring and marking and inspection	C1.1 Measurement of Length C1.2 Measurement of planes and surface roughness C1.3 Measurement of angles C1.4 Hardness test C1.5 Tension test
C2. Basic working Operation	C2.1 Handling of Lathe M/c C2.2 Handling of Drilling C2.3 Handling of Shaping M/c C2.4 Handling of milling M/c C2.5 Handling of Grinding Machines
C3. Basic Machining work	C3.1 Marking out C3.2 Chipping Work C3.3 File finishing work C3.4 Hack-sawing work C3.5 Scraping and fitting work C3.6 Tapping work C3.7 Reamer work C3.8 Working using lathe C3.10 Cutting of material with sawing machine C3.11 Working with the drilling m/c C3.12 Working with shaping m/c C3.13 Working using milling m/c

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Basic Practical Study
Subject	Item
C4. Basic tool grinding	C4.1 Hand grinding C4.2 Machine grinding
C5. Forging and Heat treatment	C5.1 Equipment C5.2 Operations C5.3 Machine Forging C5.4 Heat Treatment C5.5 Welding tipped tools
C6. Welding	C6.1 Arc Welding Practice C6.2 Gas welding Practice
C7. Sheet metal working	C7.1 Marking out C7.2 Cutting off C7.3 Bending/forming C7.4 Riveting C7.5 Soldering/Brazing

**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Applied Practical Study
Subject	Item
D1. Applied practice	D1.1 Project work  D2.2 Machinery maintenance  D2.1 Making drill jig, setting gauge  D2.2 Making die, ponch  D2.3 Fixtures



**Syllabus Chart**  
**Course: Machinist and Fitter General**

Study	Practical Work Assessment	
	Subject	Item
E1. Industrial Attachment or Production Practice		

14. 新旧カリキュラム対照表（電子科、自動車科）

Comparison of old and new curriculum

Field(Electronics)

31.Dec.2001

1/3

Old curriculum	New curriculum
B2 Current voltage and resistance	B2 & C2 Analog Electronics I Current voltage and resistance Direct current circuit Magnetism Inductance and transformer Capacitance Alternating current Resonance and LC filter Active devices Power supplies Oscillators Measuring devices Audio frequency amplifiers Motors and generators Batteries Drawing Audio and radio frequency Design, construction and testing of analog circuit
B3 Direct current circuit	
B4 Magnetism	
B5 Inductance and transformer	
B6 Capacitance	
B7 Alternating current	
B8 Resonance and LC filter	
B9 Active devices	
B10 Power supplies	
B11 Oscillators	
B13 Measuring devices	
B14 Audio frequency amplifiers	
B22 Motors and generators	
B24 Batteries	
B25 Drawing	
C2 Power supplies	
C3 Oscillators	
C4 Audio and radio frequency	
C5 Design, construction and testing of analog circuit	

Comparison of old and new curriculum

Old curriculum	New curriculum
B15 Radio frequency amplifier	D1 Analog circuit II Radio frequency amplifier Basic transmitter Amplitude modulation and Single side band (ssb) Amplifier modulation receivers Frequency modulation Antennas Television Radio rules and regulations Television and radio receivers <b>Analog IC</b>
B16 Basic transmitter	
B17 Amplitude modulation and Single side band (ssb)	
B18 Amplifier modulation receivers	
B19 Frequency modulation	
B20 Antennas	
B21 Television	
B23 Radio rules and regulations	
C5 Television and radio receivers	
B12 Digital circuit	B3 & C3 Digital Electronics I Digital circuit Design construction and testing of digital electronics circuits <b>Interfacing with the analogue world</b> <b>Memory device</b>
C6 Design construction and testing of digital electronics circuits	
(None)	D2 Digital Electronics II <b>Micro-processing device</b> <b>Micro-processor and Micro-computer</b> <b>Development</b>

Comparison of old and new curriculum

Old curriculum	New curriculum
C7 Personal computer	B4 & C4 Computer system 1 Internet Visual Basic
(None)	D3 Computer system 2 Network Programming flow Application Software development

Comparison of old and new curriculum  
Field (Motor vehicle)

31th.Dec.2001

1/2

Old Curriculum	New Curriculum
B1. Applied science I	B1. Applied science I
B2. Applied science II	B2. Applied science II
B3. Mechanical engineering	B3. Mechanical engineering
B4. Electrical engineering	B4. Electrical engineering
B5. Machining and tool Making	B5. Machining and tool Making
B6. Measuring	B6. Measuring
B7. Materials	B7. Materials
B8. Drawing	B8. Drawing
B9. Safety and health	B9. Safety and health
B10. Internal combustion engine I	B10. Internal combustion engine I
B11. Internal combustion engine II	B11. Internal combustion engine II
B12. Chassis I	B12. Chassis I
B13. Chassis II  1. Automatic transmission 2. Power steering 3. Brake 4. Suspension 5. 4WD 6. Wheel alignment	<u>B13. Chassis II</u>  <u>1. Automatic transmission</u> 2. Power steering 3. Brake 4. Suspension 5. 4WD 6. Wheel alignment
B14. Auto electrical I	B14. Auto electrical I
B15. Auto electrical II	B15. Auto electrical II
B16. Car maintenance equipment and tools	B16. Car maintenance equipment and tools

Comparison of old and new curriculum  
Field (Motor vehicle)

31th.Dec.2001

2/2

Old Curriculum	New Curriculum
C1. Basic engineering work	C1. Basic engineering work
C2. Engine work I	C2. Engine work I
C3. Engine work II	C3. Engine work II
C4. Chassis work I	C4. Chassis work I
C5. Chassis work II	<u>C5. Chassis work II</u>
1. Automatic transmission 2. Power steering 3. Brake 4. 4WD 5. Body 6. Wheel alignment	<u>1. Automatic transmission</u> <u>2. Power steering</u> <u>3. Brake</u> <u>4. 4WD</u> <u>5. Body</u> <u>6. Wheel alignment</u>
C6. Auto electrical I	C6. Auto electrical I
C7. Auto electrical II	<u>C7. Auto electrical II</u>
1. Charging system 2. Alternator with vacuum pump 3. Wiring system 4. Accessories  5. None	1. Charging system 2. Alternator with vacuum pump 3. Wiring system 4. Accessories <u>5. Electronic Fuel Injection</u> <u>(1) Diagnostic check</u> <u>(2) Sensor system</u> <u>(3) Electronic Fuel Injection system</u>
D1. Applied practice	D1. Applied practice
E1. Industrial attachment	E1. Industrial attachment

計画達成度 : 訓練計画・管理

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)                  1. 長期専門家: 川島 徹 計1名                  2. 短期専門家: 上田 耕司 他5名                  3. C/P 研修: A. Tuzinde (日本研修8名、第三国研修1名)</p>	<p>(ウガンダ側)                  1. C/P配置: Mr. A. Masalo 他9名 計10名                  ・ (内5名が辞職や異動等) 現在5名</p>
<p>2. 活動実績</p>	<p>1-1) 訓練実施に必要な人員を確保する。                  1-2) 訓練管理体制を確立する。                  1-3) インカムジェネレーション活動を実施する。                  1-4) 委員会により校の運営をする。                  1-5) 訓練に適した機材を選定し据え付ける。                  1-6) 訓練機材の適切な保守管理を行う。</p>	<p>1-1) 機械科のC/Pに1名の欠員があるが、他の6学科及び管理部門の要員は確保された。                  1-2) 訓練管理体制が確立された。                  1-3) インカム活動の実施及び管理体制が確立された。                  1-4) 6委員会による校運営体制が、確立された。                  1-5) 訓練に適した機材が選定され据え付けられた。                  1-6) 訓練機材の適切な保守管理体制が整備された。</p>
<p>3. 成果の達成状況</p>	<p>1. 全科に対する職業訓練に必要な体制が整備される。</p>	<p>1) 各分野の職業訓練に必要な体制が整備された。</p>
<p>4. プロジェクト目標の達成度</p>	<p>ナカワ職業訓練校において、各分野（機械、電気、溶接、板金、自動車、電子、木工）で産業・工業界の求める技術者が養成される。</p>	<p>1998年度クラスが、電気、機械、自動車、溶接科から卒業した。1999年度クラスは、全科（7科）から卒業している。                  機械、電気、溶接、板金科においては、産業・工業界が求める技術者を養成する体制が整った。木工、電子、自動車科に於いては、以下の理由により、技術者養成体制が完全に確立されていない。                  電子科、自動車科の場合、訓練カリキュラムは、最近の産業界のニーズにより、改訂された。木工科の場合、退職等により、C/Pは定着しなかった。</p>

1. 投入実績	<p>日本側</p> <p>1. 長期専門家 : 佐藤 一晃、平川 光則</p> <p>2. 短期専門家派遣数 : なし</p> <p>3. C/P研修 : Mr. F.Omoo (日本研修5名、第三国研修3名)</p> <p>ウガンダ側</p> <p>1. C/P配置 : Mr. F.Omoo 計9名配置 (内3名が異動等)</p>
2. 活動実績	<p>養成訓練</p> <p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1. 当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上)</p> <p>2. 訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。1年間を前・後期に分け、学科(25%)、実技(75%)で構成され、1年目が基礎科目(アナログ回路I、デジタル回路I、コンピュータシステムI等)、2年目が応用科目(アナログ回路II、デジタル回路II、コンピュータシステムII等)、応用実習等を行っている。</p> <p>3. 電子科の運営管理、機器のメンテナンス、指導技法、教材作成、カリキュラム・シラバスの改訂を技術移転している。</p> <p>向上訓練</p> <p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1. 在職者等</p> <p>2. 企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。</p> <p>3. 日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された。(例: 各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)</p> <p>夜間訓練</p> <p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1. 訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。)</p> <p>2. 訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にかつマンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。</p> <p>3. 技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p> <p>教材・カリキュラム等整備</p> <p>1. シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対してかつマン資格に必要な教材を整備した。</p> <p>2. ナカワVTIでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。</p> <p>3. 電子科の場合、カリキュラムの科目別に、パソコンを活用した教材作成を行っている。</p> <p>4. 電子科では、ITシステムに係る技術の進展に対応したシラバスやカリキュラムに変更を行った。</p> <p>5. ビジネスマネジメントは、UNDOの協力を得て訓練教材を開発した。</p>
3. 成果の達成状況	<p>養成訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 全ての訓練用テキストや教材の整備が完了した。(ただし、アナログICの応用技術、PLD(プログラマブルロジックデバイス)、1チップマイクロプロセッサ、コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに係るものは除く)</p> <p>2. C/Pは6名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。</p> <p>3. 当該分野の科目に対する技能向上は、今後も不可欠である。</p> <p>4. ウガンダ産業界には、先端的部分の技術移転が大変重要になることから。</p> <p>向上訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 2年間で15コース(向上訓練)を開発した。また、養成訓練の科目内容を基に訓練教材を作成した。</p> <p>2. 産業界の各種ニーズに即したコース開発を行い、訓練教材を作成する必要がある。</p> <p>3. ウガンダには、ITに関する多くのニーズが存在するため。</p> <p>夜間訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>養成訓練の実施に伴い、テキスト、指導方法等も向上した。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>1. 機材の選定、据付、保守、管理は、プロジェクト終了時ではほぼ半数の科目に係るものについて技術移転が終了する。 アナログ回路の応用技術、PLD、1チップマイクロプロセッサ、コンピュータのハードウェア及びソフトウェアの技術移転はプロジェクト協力期間までに終わることは難しい。</p> <p>2. 指導技法の評価、改善は、長期専門家及び短期専門家により基本的な指導がなされているが、応用的な改善能力等は、未だ十分な技術移転状況ではない。</p> <p>3. カリキュラムを踏まえて、科目別に機材の活用が図られ、実習を行い、訓練教材の開発、改訂に毎年取り組んでいる姿が見受けられる。</p> <p>4. 長期専門家により、カリキュラム・シラバスの開発に関わる技術が移転されている状況である。</p> <p>5. 教材の選択、作成も、科目別に完成している上、一部パソコンを使用した教材作成を行い、ネットワークシステム(イントラネット)を利用して、教材の一部を共有化している。</p> <p>養成訓練</p> <p>C/Pの配置は6名(卒業生数は、2001年に18名)。</p> <p>向上訓練</p> <p>企業、公共機関のニーズにより、向上訓練を実施した。 受講者数も安定して集まっている。 受講者数は、計101名(1999年2コース、2000年2コース、2001年11コース)</p> <p>夜間訓練</p> <p>養成訓練の充実に伴い、年々入学者も増加している。 卒業生数は、2001年19名</p>



科名：電気科

平成13年11月2日

1. 投入実績	<p>日本側</p> <p>1. 長期専門家 : 佐藤 一晃、藤田 雅廣</p> <p>2. 短期専門家派遣数 : 林 宏達</p> <p>3. C/P研修 : Ms. Asimwe L (日本研修3名)</p> <p>ウガンダ側</p> <p>1. C/P配置 : Mr. A.Sembatya 計13名配置 (内7名が異動等)</p>
2. 活動実績	<p>養成訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>1. 当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上)</p> <p>2. 訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。1年間を前・後期に分け、学科(25%)、実技(75%)で構成され、1年目が基礎科目(電気理論、電気工事(規則)、電気機器等)、2年目が応用科目(配電、シーケンス制御、応用冷凍技術等)、応用実習等を行っている。</p> <p>3. 電気科の運営管理、機器のメンテナンス、指導技法、教材作成、カリキュラム・シラバスの改訂を技術移転している。</p> <p>向上訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>1. 在職者等</p> <p>2. 企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。</p> <p>3. 日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された。(例: 各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)</p> <p>夜間訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>1. 訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。)</p> <p>2. 訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にナイトに必要最低限の科目数、時間数を設定。</p> <p>3. 技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p> <p>教材・カリキュラム等整備</p> <p>1. シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対してナカワ資格に必要な教材を整備した。(ILOの教材に基づいたものも含む)</p> <p>2. ナカワVTIでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。</p> <p>3. 電気科の場合、カリキュラムの科目別に、パソコンを活用した教材作成を行っている(ILOの教材に基づいたものを含む。)</p> <p>4. ビジネスマネジメントは、UNIDOの協力を得て訓練教材を開発した。</p>
3. 成果の達成状況	<p>養成訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 全ての訓練用テキストや教材の整備が完了した。(ILOの教材に基づいたものを含む。)</p> <p>2. C/Pは6名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。</p> <p>3. 当該分野の科目に対する技能向上は、今後也不可欠である。</p> <p>4. ウガンダ産業界の現状に沿った技術移転が十分できた。</p> <p>5. ただし、将来的にはより高度な技術(PLC(プログラマブル・ロジック・コントローラ)を使ったシステム制御、光通信ケーブル施工技術)に係る技能の向上が必要になる。そして、この分野で技術の更新に適合する教材やテキストの改訂が必要である。</p> <p>向上訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 4年間で12コース(向上訓練)を開発した。また、養成訓練の科目内容を基に訓練教材を作成した。</p> <p>2. 産業界の各種ニーズに即したコース開発を行い、訓練教材を作成する必要がある。</p> <p>夜間訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>養成訓練の実施に伴い、テキスト、指導方法等も向上した。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>1. 機材の選定、据付、保守、管理は、プロジェクト終了時で全ての科目(モータ制御技術の除く)に係るものについて技術移転が終了する。</p> <p>2. 指導技法の評価、改善は、長期専門家及び短期専門家により基本的な指導がなされているが、応用的な改善能力等は、未だ十分な技術移転状況ではない。</p> <p>3. カリキュラムを踏まえて、科目別に機材の活用が図られ、実習を行い、訓練教材の開発、改訂を毎年取り組んでいる姿が見受けられる。</p> <p>4. 長期専門家により、カリキュラム・シラバスの開発に関わる技術が移転されている状況である。</p> <p>5. 教材の選択、作成も、科目別に完成している上、一部パソコンを使用した教材作成を行い、ネットワークシステム(イントラネット)を利用して、教材の一部を共有化している。</p> <p>養成訓練</p> <p>C/Pの配置は6名(卒業生数は、2000年は18名、2001年に18名)。</p> <p>向上訓練</p> <p>企業、公共機関のニーズにより、向上訓練を実施した。</p> <p>受講者数も安定して集まっている。</p> <p>受講者数は、計58名(1998年2コース、1999年2コース、2000年4コース、2001年4コース)</p> <p>夜間訓練</p> <p>養成訓練の充実に伴い、年々入学者も増加している。</p> <p>卒業生数は、2001年35名</p>

1. 投入実績	<p>日本側</p> <p>1. 長期専門家 : 野澤 征夫、鈴木 茂勝</p> <p>2. 短期専門家派遣数 : なし</p> <p>3. C/P研修 : j. Katungole, Bukiwa H (日本研修5名、第三国研修2名)</p> <p>ウガンダ側</p> <p>1. C/P配置 : j. Katungole 計9名配置 (内4名が資格及び退職等)</p>
2. 活動実績	<p>養成訓練</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1. 当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上)</p> <p>2. 訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。1年目を前・後期に分け、学科(25%)、実技(75%)で構成され、1年目が基礎科目(測定、溶接、板金、手仕上げ、旋盤加工、フライス加工等)、2年目が応用科目(測定、検査、機械加工(旋盤、フライス等)、応用実習等を行っている。インカムジェネレーション活動と連携して、機械加工、仕上げ作業を実施している。</p> <p>3. 機械科の運営管理、機器のメンテナンス、指導技法、教材作成、カリキュラム・シラバスの改訂に関し技術を移転している。機械科の場合、機材の壊れた部品の製作をするなど保守管理技術も付与している。</p> <p>4. インカムジェネレーション活動と連携して、1年次、2年次の養成訓練を実施している。</p> <p>向上訓練</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1. 在職者等</p> <p>2. 企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。</p> <p>3. 日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された。(例:各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)</p> <p>夜間訓練</p> <p>訓練開始時期は、1998年</p> <p>訓練対象 訓練内容・ 技術移転内容、状況</p> <p>1. 訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。)</p> <p>2. 訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にノウハウに必要な最低限の科目数、時間数を設定。</p> <p>3. 技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p> <p>教材・カリキュラム等整備</p> <p>1. シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対してILO教材、OVTA教材を基にノウハウ資格に必要な教材を整備した。訓練用教材はILO教材OVTA教材を中心に全科目に対し整備された。</p> <p>2. ナカワVTIでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。</p> <p>3. 機械科の場合、カリキュラムの科目別に、ILOテキストを基に、パソコンを活用した教材作成を行っている。</p>
3. 成果の達成状況	<p>養成訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 機械科の全科目に対して、ILO、OVTAの教材を基に必要なノウハウの整備を完了した。</p> <p>2. C/Pは5名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。</p> <p>3. 現状のウガンダ産業界の現状等を考慮した技術移転内容を実施している。</p> <p>4. 今後の先端技術(CAD/CAM、NC工作機械等)も含めた技能・技術の発展状況に沿ったカリキュラム等の見直し、テキスト・教材の作成、C/P技能・技術力の向上が逐次実施される事が望まれる。</p> <p>5. 万能工具研削盤と平面研削盤の操作・保守管理を6ヶ月で技術移転すれば、機材設置、保守管理は完了する。</p> <p>向上訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1. 3年間で16コース(向上訓練)を開発した。また、養成訓練の科目内容を基に訓練教材を作成した。</p> <p>2. 産業界の各種ニーズに即したコース開発を行い、訓練教材を作成する必要がある。</p> <p>3. ウガンダには、機械加工に対する基礎的ニーズが存在するため。</p> <p>夜間訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>養成訓練の実施に伴い、テキスト、指導方法等も向上した。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>1. 機材の選定、据付、保守、管理は、機材の部品が破損した場合も部品製作により対処する方法の付与など保守管理の目標は、概ね達成している。(万能工具研削盤と平面研削盤の数値制御含めた一部保守管理を除いて)</p> <p>2. 指導技法の評価、改善は、長期専門家及び短期専門家により基本的な指導がなされているが、応用的な改善能力等は、未だ十分な技術移転状況ではない。</p> <p>3. カリキュラムを踏まえて、科目別に機材の活用が図られ、実習を行い、訓練教材の開発、改訂に毎年取り組んでいる姿が見受けられる。</p> <p>4. 長期専門家により、カリキュラム・シラバスの開発に関わる技術が移転されている状況である。</p> <p>5. 教材の選択、作成も、科目別に完成している上、一部パソコンを使用した教材作成を行い、ネットワークシステム(イントラネット)を利用して、教材の一部を共有化している。</p> <p>養成訓練</p> <p>C/Pの配置は5名(卒業生数は、2000年に17名、2001年に18名)。</p> <p>向上訓練</p> <p>企業、公共機関のニーズにより、向上訓練を実施した。</p> <p>受講者数も安定して集まっている。</p> <p>受講者数は、計56名(1998年は1コース、1999年5コース、2000年8コース、2001年2コース)</p> <p>夜間訓練</p> <p>養成訓練の充実に伴い、年々入学者も増加している。</p> <p>卒業生数は、2000年7名、2001年13名(2001年10月末の在校生は、1学年19名、2学年18名、3学年は卒業済)</p>

<p>1. 投入実績</p>	<p>日本側 1.長期専門家 竹野 俊夫、佐々木 勝男 計2名 2.短期専門家派遣数:なし 3.C/P研修:Wanyama Ignation (日本研修6名)</p> <p>ウガンダ側 1.C/P配置:Namiisi Saimon 計12名配置 (内5名退職及び異動等)</p>								
<p>2. 活動実績</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 488 486 640"> <p>養成訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> </td> <td data-bbox="486 488 1415 640"> <p>訓練開始時期は、1998年 1.当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上) 2.訓練内容は1年次基本学科・実技、2年次は応用実技、工場実習等である。 3.訓練コースは98年度より開始され、現在4期生が一年次に在籍している。 4.C/Pへの技術移転は97年より長期専門家により開始され日本研修4回、第三国研修3回が実施されている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 640 486 792"> <p>向上訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> </td> <td data-bbox="486 640 1415 792"> <p>訓練開始時期は、1999年 1.在職者等 2.企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。 3.日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された(例:各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 792 486 922"> <p>夜間訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> </td> <td data-bbox="486 792 1415 922"> <p>訓練開始時期は、1998年 1.訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。) 2.訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にクワマンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。 3.技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 922 486 1032"> <p>教材・カリキュラム等整備</p> </td> <td data-bbox="486 922 1415 1032"> <p>1.シラバス、カリキュラムの改訂を2001年に行い、クワマン資格に必要な全科目に対して教材を整備した。 2.ナカワV T Iでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。 3.自動車科の場合、エンジン、オートマチックトランスミッションの先端技術内容をカリキュラム、シラバスに反映した。</p> </td> </tr> </table>	<p>養成訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1998年 1.当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上) 2.訓練内容は1年次基本学科・実技、2年次は応用実技、工場実習等である。 3.訓練コースは98年度より開始され、現在4期生が一年次に在籍している。 4.C/Pへの技術移転は97年より長期専門家により開始され日本研修4回、第三国研修3回が実施されている。</p>	<p>向上訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1999年 1.在職者等 2.企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。 3.日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された(例:各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)。</p>	<p>夜間訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1998年 1.訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。) 2.訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にクワマンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。 3.技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p>	<p>教材・カリキュラム等整備</p>	<p>1.シラバス、カリキュラムの改訂を2001年に行い、クワマン資格に必要な全科目に対して教材を整備した。 2.ナカワV T Iでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。 3.自動車科の場合、エンジン、オートマチックトランスミッションの先端技術内容をカリキュラム、シラバスに反映した。</p>
<p>養成訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1998年 1.当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である。(中学校卒業程度以上) 2.訓練内容は1年次基本学科・実技、2年次は応用実技、工場実習等である。 3.訓練コースは98年度より開始され、現在4期生が一年次に在籍している。 4.C/Pへの技術移転は97年より長期専門家により開始され日本研修4回、第三国研修3回が実施されている。</p>								
<p>向上訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1999年 1.在職者等 2.企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。 3.日本人専門家からの技術・技能の移転内容に基づき、各種向上訓練コースを開発したことにより、在職者等の技能が改善された(例:各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与など)。</p>								
<p>夜間訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1998年 1.訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。) 2.訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にクワマンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。 3.技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p>								
<p>教材・カリキュラム等整備</p>	<p>1.シラバス、カリキュラムの改訂を2001年に行い、クワマン資格に必要な全科目に対して教材を整備した。 2.ナカワV T Iでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。 3.自動車科の場合、エンジン、オートマチックトランスミッションの先端技術内容をカリキュラム、シラバスに反映した。</p>								
<p>3. 成果の達成状況</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 1088 486 1272"> <p>養成訓練 達成状況、課題</p> </td> <td data-bbox="486 1088 1415 1272"> <p>良好 1.全科目に対してカリキュラムに沿った教材、テキストの整備を完了した。 (電子制御式エンジン、オートマチックトランスミッションの分野を除く) 2.C/Pは7名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。 3.電子制御式エンジン、A Tに関する技能の向上及び改訂は、必要である。 4.ウガンダの産業界には、先端的分野の技術移転が大変重要となるため。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 1272 486 1382"> <p>向上訓練 達成状況、課題</p> </td> <td data-bbox="486 1272 1415 1382"> <p>良好 1.向上訓練用のC/P用及び受講者用テキストを開発した。 2.企業における先進技術の変化を考慮しながら、カリキュラムやシラバスを改訂することは必要である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 1382 486 1458"> <p>夜間訓練 達成状況、課題</p> </td> <td data-bbox="486 1382 1415 1458"> <p>1.養成訓練用訓練教材やテキストの作成や指導方法を通して訓練生の技能が改善された。</p> </td> </tr> </table>	<p>養成訓練 達成状況、課題</p>	<p>良好 1.全科目に対してカリキュラムに沿った教材、テキストの整備を完了した。 (電子制御式エンジン、オートマチックトランスミッションの分野を除く) 2.C/Pは7名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。 3.電子制御式エンジン、A Tに関する技能の向上及び改訂は、必要である。 4.ウガンダの産業界には、先端的分野の技術移転が大変重要となるため。</p>	<p>向上訓練 達成状況、課題</p>	<p>良好 1.向上訓練用のC/P用及び受講者用テキストを開発した。 2.企業における先進技術の変化を考慮しながら、カリキュラムやシラバスを改訂することは必要である。</p>	<p>夜間訓練 達成状況、課題</p>	<p>1.養成訓練用訓練教材やテキストの作成や指導方法を通して訓練生の技能が改善された。</p>		
<p>養成訓練 達成状況、課題</p>	<p>良好 1.全科目に対してカリキュラムに沿った教材、テキストの整備を完了した。 (電子制御式エンジン、オートマチックトランスミッションの分野を除く) 2.C/Pは7名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。 3.電子制御式エンジン、A Tに関する技能の向上及び改訂は、必要である。 4.ウガンダの産業界には、先端的分野の技術移転が大変重要となるため。</p>								
<p>向上訓練 達成状況、課題</p>	<p>良好 1.向上訓練用のC/P用及び受講者用テキストを開発した。 2.企業における先進技術の変化を考慮しながら、カリキュラムやシラバスを改訂することは必要である。</p>								
<p>夜間訓練 達成状況、課題</p>	<p>1.養成訓練用訓練教材やテキストの作成や指導方法を通して訓練生の技能が改善された。</p>								
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<p>1. 機材の選定、据付、保守、管理は、機材の部品が破損した場合も部品製作により対処する方法の付与など保守管理の目標は、概ね達成している(電子制御式エンジン、A T分野を除く)。 2. 指導技法の評価、改善は、長期専門家及び短期専門家により基本的な指導がなされているが、応用的な改善能力等は、未だ十分な技術移転ではない。 3. カリキュラムを踏まえて、科目別に機材の活用が図られ、実習を行い、訓練教材の開発、改訂に毎年取り組んでいる姿が見受けられる。 4. 長期専門家により、カリキュラム・シラバスの開発に関わる技術が移転されている状況である。 5. 教材の選択、作成も、科目別に完成している上、一部パソコンを使用した教材作成を行い、ネットワークシステム(イントラネット)を利用して、教材の一部を共有化している。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 1704 486 1742"> <p>養成訓練</p> </td> <td data-bbox="486 1704 1415 1742"> <p>C/Pの配置は7名(卒業生数は、2000年に21名、2001年に19名)。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 1742 486 1827"> <p>向上訓練</p> </td> <td data-bbox="486 1742 1415 1827"> <p>自動車整備に関する各種向上訓練の開発を行った。 それらのコースは、産業界、公共機関等のニーズに沿うことが求められる。 受講者数は、201名(1999年に11コース、2000年に5コース、2001年10月末までに4コース)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 1827 486 1926"> <p>夜間訓練</p> </td> <td data-bbox="486 1827 1415 1926"> <p>養成訓練の充実に伴い、C/Pの技能・技術能力が改善された。 卒業生数は、2000年に10名、2001年に20名 2001年10月末の在校生は、1学年20名、2学年42名、3学年は、卒業済)</p> </td> </tr> </table>	<p>養成訓練</p>	<p>C/Pの配置は7名(卒業生数は、2000年に21名、2001年に19名)。</p>	<p>向上訓練</p>	<p>自動車整備に関する各種向上訓練の開発を行った。 それらのコースは、産業界、公共機関等のニーズに沿うことが求められる。 受講者数は、201名(1999年に11コース、2000年に5コース、2001年10月末までに4コース)</p>	<p>夜間訓練</p>	<p>養成訓練の充実に伴い、C/Pの技能・技術能力が改善された。 卒業生数は、2000年に10名、2001年に20名 2001年10月末の在校生は、1学年20名、2学年42名、3学年は、卒業済)</p>		
<p>養成訓練</p>	<p>C/Pの配置は7名(卒業生数は、2000年に21名、2001年に19名)。</p>								
<p>向上訓練</p>	<p>自動車整備に関する各種向上訓練の開発を行った。 それらのコースは、産業界、公共機関等のニーズに沿うことが求められる。 受講者数は、201名(1999年に11コース、2000年に5コース、2001年10月末までに4コース)</p>								
<p>夜間訓練</p>	<p>養成訓練の充実に伴い、C/Pの技能・技術能力が改善された。 卒業生数は、2000年に10名、2001年に20名 2001年10月末の在校生は、1学年20名、2学年42名、3学年は、卒業済)</p>								

1. 投入実績	<p>日本側</p> <p>1.長期専門家 : 飯田洋文 2.短期専門家派遣数 : 比嘉 良美津 (配管分野) 1名 3.C/P研修: Muwanga G Fred (日本研修4名)</p> <p>ウガンダ側</p> <p>1.C/P配置: Muwanga G Fred 計9名配置 (内2名が異動等)</p>
2. 活動実績	<p>養成訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1999年から訓練開始</p> <p>1.当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である (中学校卒業程度以上)。 2.訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。 訓練は、1年間を前・後期の2期に分け、1年次は機械製図材料、測定、手仕上げ作業等の基本学科・実技、2年次は応用実習、自動車板金、仕上げ塗装、板金加工等である。 3.板金科の運営管理、機器のメンテナンス、訓練用教材やテキストの作成、カリキュラムの改訂に関するC/Pの技能が改善された。 4.インカムジェネレーション活動と連携して、1年次、2年次の養成訓練を実施している。</p> <p>向上訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1998年から訓練開始</p> <p>1.在職者等 2.企業や公共機関等のニーズに基づき、板金分野のレディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。 3.C/Pへの技術移転は、コース開発 (かきゅう、訓練課題、訓練経費計算法等) に関し、改善指導した。</p> <p>夜間訓練</p> <p>訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1999年から訓練開始</p> <p>1.訓練対象は養成訓練 (昼間) と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。) 2.訓練期間は2年半で編成され、養成訓練 (昼間) を基に夕方までに必要な最低限の科目数、時間数を設定。 3.技術移転内容、状況は養成訓練 (昼間) 指導の中で行われている。</p> <p>教材・カリキュラム等整備</p> <p>1.シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対してILO教材、OVTA教材を基に夕方までに必要な教材を整備した。 訓練用教材はILO教材OVTA教材を中心に全カリキュラムに関し整備された。 2.ナカワVTIでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。 3.当科を実施するために必要な機器及び工具等の訓練用機材を整備した。</p>
3. 成果の達成状況	<p>養成訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1.訓練実施のために、ILO、OVTAの教材を基に必要な教材の整備を完了した。 (自動車板金、配管作業、仕上げ塗装の各科目を除く) 2.C/Pは7名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。 3.配管作業、仕上げ塗装、自動車板金に関わる技術移転は、未だ十分ではない。 4.当該分野の科目に対する技能向上は、今後も不可欠である。 5.訓練教材の一部は、ネットワークシステム (イントラネット) により共有化されている。</p> <p>向上訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>良好</p> <p>1.訓練実施に必要な教材等は養成訓練と概ね共通である。 2.訓練生用教材は、各向上訓練向けに整備された。 3.かきゅう、シラバス改定を民間技術のレベルアップに伴い行う必要がある。</p> <p>夜間訓練</p> <p>達成状況、課題</p> <p>1.養成訓練 (昼間) の整備に伴い、訓練教材、C/P用テキストの作成能力が改善された。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>1.訓練機器の選定、据付け、保守管理についての技術移転は、ほぼ完了した。 (自動車板金、配管作業、仕上げ塗装の各科目を除く) 2.長期・短期専門家による基礎的指導技法の技術移転は完了したが、応用的指導技法の技術移転は、未だ充分でない。 3.かきゅうを通して実習に機器を導入でき、指導・学習用教材をほぼ完了し、その教材を毎年、見直している。 4.長期専門家により、シラバス、カリキュラムを開発する技能を技術移転した。 5.各科目に対する教材を選定し、訓練教材を作成した。それらの訓練教材の一部をパソコンを使い、作成しネットワークシステム (イントラネット) により共有化した。</p> <p>養成訓練</p> <p>1.板金科にC/Pが7名配置された (2001年に12名卒業)。</p> <p>向上訓練</p> <p>1.板金分野に関して、向上訓練を実施した。向上訓練受講者数も増加している。 2.向上訓練コースを開発した。(1998年に1コース、1999年に4コース、2000年に7コース、2001年現在は、1コース) 受講者数 合計56名 (1998年~2001年10月末)</p> <p>夜間訓練</p> <p>1.養成訓練 (昼間) の実施状況の充実に伴い、訓練生の人数は増えている。 2001年に3名卒業 (2001年10月末の在校生は、一学年15名、二学年21名、三学年卒業済み)</p>

1. 投入実績	<p>日本側</p> <p>1. 長期専門家 : 山川 敏彦、宝来 利恵</p> <p>2. 短期専門家派遣数 : 久保田 潤司</p> <p>3. C/P研修 : Mr. Mugisha H (日本研修4名)</p> <p>ウガンダ側</p> <p>1. C/P配置 : Mr. Mugisha H 計11名配置 (内4名が退職)</p>
2. 活動実績	
<p>養成訓練</p> <p>訓練対象</p> <p>訓練内容</p> <p>技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>1. 当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である (中学校卒業程度以上)。</p> <p>2. 訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。1年間を前・後期に分け、学科(25%)、実技(75%)で構成され、1年目が基礎科目(木材材料、木材加工、製図等)、2年目が応用科目(仕上げ作業、家具製造法等)、応用実習等を行っている。</p> <p>3. 木工科の運営管理、機器のメンテナンス、指導技法、教材作成、カリキュラム・シラバスの改訂に関し技術移転している。</p> <p>4. 1年及び2年の訓練はインカム活動と連携して行っている。</p>
<p>向上訓練</p> <p>訓練対象</p> <p>訓練内容</p> <p>技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>1. 在職者等</p> <p>2. 企業や公共機関の様々なニーズに基づき、レディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。</p> <p>3. 向上訓練を開発するため、C/Pの能力が向上した(例:各種向上訓練のコース開発計画、設定等の能力の付与等)。</p>
<p>夜間訓練</p> <p>訓練対象</p> <p>訓練内容</p> <p>技術移転内容、状況</p>	<p>訓練開始時期は、1999年</p> <p>1. 訓練対象は養成訓練(昼間)と同様(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。)</p> <p>2. 訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基に777マンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。</p> <p>3. 技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p>
<p>教材・カリキュラム等整備</p>	<p>1. シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対して7777資格に必要な教材を整備した。</p> <p>2. ナカワV T Iでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。</p> <p>3. 木工科の場合、カリキュラムの科目別に、パソコンを活用した教材作成を行っている。</p> <p>4. プロジェクトの前半期間に4名のC/Pが離職した。このため、新たに配置されたC/Pに技術移転する必要があった。</p> <p>5. ビジネスマネジメントは、UNIDOの協力を得て訓練教材を開発した。</p>
3. 成果の達成状況	
<p>養成訓練</p> <p>達成状況、課題</p>	<p>良好</p> <p>1. 全ての訓練用テキストや教材の整備が完了した(ただし、各種継ぎ手加工機、圧力機、超仕上げかな盤などを除く)。</p> <p>2. C/Pは7名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。</p> <p>3. 当該分野の科目に対する技能向上は、今後也不可欠である。</p> <p>4. ウガンダ産業界には、先端的部分の技術移転が大変重要になるため。</p>
<p>向上訓練</p> <p>達成状況、課題</p>	<p>良好</p> <p>1. 2年間で6コース(向上訓練)を開発した。また、養成訓練の科目内容を基に訓練教材を作成した。</p> <p>2. 産業界の各種ニーズに即したコース開発を行い、訓練教材を作成する必要がある。</p> <p>3. ウガンダには、木工加工に関する多くのニーズが存在するため。</p>
<p>夜間訓練</p> <p>達成状況、課題</p>	<p>養成訓練の実施に伴い、テキスト、指導方法等も向上した。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>1. いくつかの科目に係る機材の選定、据付、保守、管理は、プロジェクト終了時ではほぼ終了する。</p> <p>各種継ぎ手加工機、圧力機、超仕上げかな盤などの関する科目については、プロジェクト協力期間までに終わることは難しい。</p> <p>2. 指導技法の評価、改善は、長期専門家及び短期専門家により基本的な指導がなされたが、応用的な改善能力等は、未だ十分な技術移転状況ではない。</p> <p>3. カリキュラムを踏まえて、科目別に機材の活用が図られ、実習を行い、訓練教材の開発、改訂に毎年取り組んでいる姿が見受けられる。</p> <p>4. 長期専門家により、カリキュラム・シラバスの開発に関わる技術が移転されている状況である。</p> <p>5. 教材の選択、作成も、科目別に完成している上、一部パソコンを使用した教材作成を行い、ネットワークシステム(イントラネット)を利用して、教材の一部を共有化している。</p>
<p>養成訓練</p>	<p>C/Pの配置は7名(卒業者数は、2001年に7名)。</p>
<p>向上訓練</p>	<p>企業、公共機関のニーズにより、向上訓練を実施した。</p> <p>受講者数も安定して集まっている。</p> <p>受講者数は、計41名(1999年1コース、2000年4コース、2001年1コース)</p>
<p>夜間訓練</p>	<p>養成訓練の充実に伴い、今後入学者が期待できる。</p>

<p>1. 投入実績</p>	<p>日本側 1.長期専門家 後藤哲、橋本男 計2名 2.短期専門家派遣数: 1名 久保田 潤司 3.C/P研修: Wanyama Ignation (日本研修4名、第三国研修 5名)</p> <p>ウガンダ側 1.C/P配置: Namiisi Saimon 計9名配置 (内3名が異動及び辞職)</p>
<p>2. 活動実績</p>	<p>養成訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1998年から訓練開始 1.当科の訓練生の対象はS4修了のOレベル以上である(中学校卒業程度以上)。 2.訓練期間は2年間で学科25%、実技75%の構成。 訓練は、1年間を前・後期の2期に分け1年次は機械工学、製図、測定実習等の基本学科・実技、2年次はTIG、MIG溶接、応用実習等である。 3.溶接科の運営管理、機器のメンテナンス、各科目の知識啓発、訓練用教材やテキストの作成、カリキュラムの改訂に関するC/Pの技能が改善された。 4.インカムジェネレーション活動と連携して、1年次、2年次の養成訓練を実施している。</p> <p>向上訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1998年から訓練開始 1.在職者等 2.企業や公共機関等のニーズに基づき、溶接分野のレディーメイド訓練やテラーメイド訓練を開発した。 3.C/Pへの技術移転は、コース開発(カリキュラム、訓練課題、訓練経費計算法等)に対し、改善指導した。</p> <p>夜間訓練 訓練対象 訓練内容 技術移転内容、状況</p> <p>1999年から訓練開始 1.訓練対象は養成訓練(昼間)と同様。(訓練生の対象は、S4修了のOレベル以上である。) 2.訓練期間は2年半で編成され、養成訓練(昼間)を基にクワマンに必要な最低限の科目数、時間数を設定。 3.技術移転内容、状況は養成訓練(昼間)指導の中で行われている。</p> <p>教材・カリキュラム等整備</p> <p>1.シラバス、カリキュラムの開発を行い、全科目に対してILO教材、OVTA教材を基にクワマン資格に必要な教材を整備した。 2.ナカワVTIでは、委員会制度の中で、シラバス、カリキュラムの編成について調査検討を行っている。 3.溶接科では、訓練機器や工具の教材が開発された。 4.パートナーシップは、UNIDOの協力を得て訓練教材を開発した。</p>
<p>3. 成果の達成状況</p>	<p>養成訓練 達成状況、課題</p> <p>良好 1.訓練実施のために、ILO、OVTAの教材を基に必要な教材の整備を完了した。 2.C/Pは6名が配置され、科の運営に必要な体制が整っている。 3.技術移転は、ウガンダ国の産業界の現状を考慮しながら、うまく進められている。 現在約75パーセントが完成し訓練が効率的に行われている。 4.当該分野の科目に対する技能向上は、今後も不可欠である。</p> <p>向上訓練 達成状況、課題</p> <p>良好 1.訓練実施に必要な教材等は養成訓練と概ね共通である。 2.C/P用教材は、各向上訓練向けに整備された。 3.カリキュラム、シラバス改定を民間技術のレベルアップに伴い行う必要がある。</p> <p>夜間訓練 達成状況、課題</p> <p>1.養成訓練(昼間)の整備に伴い、訓練教材、C/P用テキストの作成能力が改善された。</p>
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<p>1.訓練機器の選定、据付け、保守管理についての技術移転は、ほぼ完了した。 2.長期・短期専門家による基礎的指導技法の技術移転は完了したが、応用的指導技法の技術移転は、未だ十分でない。 3.カリキュラムを通して実習に機器を導入でき、指導・学習用教材をほぼ完了し、その教材を毎年、見直している。 4.長期専門家により、シラバス、カリキュラムを開発する技能を技術移転した。 5.各科目に対する教材を選定し、訓練教材を作成した。それらの訓練教材の一部をパソコンを使い作成し、ネットワークシステム(イントラネット)により共有化した。</p> <p>養成訓練</p> <p>溶接科にC/Pが6名配置された(2000年に17名卒業、2001年に19名卒業)。</p> <p>向上訓練</p> <p>溶接分野に関して、向上訓練を実施した。向上訓練受講者数も増加している。 受講者数 合計40名 (1998年~2001年10月末) (1998年に1コース、1999年に0コース、2000年に5コース、2001年現在は、2コース)</p> <p>夜間訓練</p> <p>養成訓練(昼間)の実施状況の充実に伴い、訓練生の人数は増えている。 2001年に4名卒業 (2001年10月末の在校生は、一学年15名、二学年10名、三学年卒業済み)</p>

16. 教材作成状況一覧表

## ナカワV T I 各科別教材作成状況一覧表

### ナカワV T I 各課別教材作成状況一覧表

平成13年10月31日現在

科名	科別教材作成目標科目数	作成目標項目数	教材完成項目数	パーセント(%)
1 電子科	13科目	13科目1212項目	546項目完成	45.0
2 電気科	19科目	19科目 708項目	392項目完成	55.4
3 機械科	18科目	18科目	18科目完成	100.0
4 自動車科	20科目	20科目1089項目	589項目完成	54.1
5 木工科	17科目	17科目1246項目	356項目完成	28.6
6 板金科	21科目	21科目 748項目	444項目完成	59.4
7 溶接科	22科目	22科目1440項目	968項目完成	67.2
合計	130科目が対象	130科目6461項目	18科目3313項目完成	51.3

### 指導用教材作成（器工具含む）状況一覧表

平成13年10月31日現在

No.	科名	教材作成（器工具含む）項目名
1	電子科	各種回路教材（電子科用）
2	電気科	はんだ付け用教材
3		各種回路教材（電気科用）
4	機械科	試験片（教材用）
5	自動車科	カットモデル（電子制御式エンジン用）
6		エンジンカットモデル
7		カットモデル（オートマチックトランスミッション）
8		教材用リレー制御版
9		オルタネーター教材
10		プリストローク 測定器（ディーゼルエンジン用）
11		バルブスプリング リムーバー
12		サンドブラスト装置
13	木工科	各種教材（継ぎ手）
14		教材用ボックス
15		教材用ドア
16		教材用引出し
17	板金科	各種工具
18		各種教材用トレイ
19		各種工具（レンチ類）
20		教材用ボトルオープナー
21		教材用ゴミ箱
22	溶接科	教材用丸テーブル
23		教材用キャスター
24		教材用スチールドア
25		教材用窓枠

17. ルゴゴ職業訓練校訓練生数推移

ルゴゴ職業訓練校訓練生数推移

(人)

科	1992		1993		1994		1995		1996		1997		1998		合計	
	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業	入校	卒業
自動車	12	9	13	12	16	15	21	18	24		15		17		118	54
煉瓦	13	12	17	13	14	14	13	13	15		14		14		100	52
大工・木工	11	10	14	11	15	14	10	15	13		13		14		90	50
電気	13	8	17	12	18	17	17	21	21		25		15		126	58
機械	24	22	16	12	16	14	16	12	14		14		14		114	60
塗装・内装	8	8	15	10	14	13	14	5	14		13		14		92	36
配管	12	12	14	13	14	14	14	14	16		16		14		100	53
溶接・組立	12	12	12	10	12	12	12	14	15		13		14		90	48
合計	105	93	118	93	119	113	117	112	132	0	123	0	116	0	830	411



18. ルゴゴ職業訓練校職員名簿（1998年10月）

1 正職員・カウンターパート

No.	氏名	職位	科
1	Kiwanuka Makumbi	Principal	Management
2	Onjie Nafutali	Deputy Principal(Training)	Management
3	Weeche Kutosi	Deputy Principal(Admi)	Management
4	Kabuye Benard	Senior Instrudctor	Brick/Blocklaying
5	Kawenyera Fred	Senior Instrudctor	Welding & Fabrication
6	Aiku Nelson	Senior Instrudctor	Electrical General
7	Acire Wilson	Senior Instrudctor	Painting & Decoraton
8	Nkwanga David	Senior Instrudctor	Plumbing & pipe fitting
9	Ssekubwa Charles	Instructor	Automotive Mechanics
10	Jemba Kosea Isreal	Instructor	Painting & Decoraton
11	Ssuna Benard	Instructor	Carpentry & Joinery
12	Matovu Bukenye A	Instructor	Electrical General
13	Namutebi Geraldinge	Instructor	Electrical General
14	Girule Micheal	Instructor	Fitting/Maching
15	Kafeero Damiano	Instructor	Plumbing & pipe fitting
16	Omita Olally	Instructor	Fitting/Maching
17	Namulema Margeret	Instructor	Painting & Decoraton
18	Tomasi Wakabi T	Instructor	Welding & Fabrication
19	Okelo Patrick	Instructor	Entrepreneurship
20	Kizito Edward	Instructor	Plumbing & pipe fitting
21	Mudoba Paul	Ass. Instructor	Automotive Mechanics
22	Kiralire Dan	Ass. Instructor	Electrical General
23	Kigugundu Badru	Ass. Instructor	Brick/Blocklaying
24	Nsibuka Jairus	Ass. Instructor	Brick/Blocklaying
25	Senfuka George William	Welder	Welding & Fabrication
26	Kisiga William	Fitter General	Fitting/Maching
27	Mulabi Richard	Electrician	Electrical General
28	Kaddu Moses	Plumber	Plumbing & pipe fitting
29	Mwesigne Patrick	Carpenter	Carpentry & Joinery
30	Kabuye Joseph	Machinist	Fitting/Maching
31	Mugisha Paul	Mason	Brick/Blocklaying
32	Ojada Thomas	Instructor	Automotive Mechanics
33	Kafeero Damiano	Instructor	Plumbing & pipe fitting
34	Omita Olally	Instructor	Fitting/Maching
35	Namulema Margeret	Instructor	Painting & Decoraton

2 正職員・管理要員

No.	氏名	職位	科
1	Wabulo Richard	Senior Accounts Asst.	Administration
2	Ahimbisibwe Deo	Accounts Asst.	Administration
3	Kiwanuka Nchristine	Secretary	Administration
4	Sebikundu Benard	Store Assistant	Administration
5	Mukalazi Josephine	Office Attendant	Administration
6	Musoke Harriet	Canteen attendant	Canteen

3 臨時職員・カウンターパート

No.	氏名	職位	科
1	Kagimu Bumbakari	Senior Instrudctor	Fitting/Maching
2	Sengendo Ivan Waswa	Instructor	Electrical General
3	Acidri Earnest	Senior Instrudctor	Commercial Skills
4	Kasule Abudu	Instructor	Commercial Skills
5	Kitto Nehemia	Instructor	Carpentry & Joinery
6	Mugabi Fred	Ass. Instructor	Welding & Fabrication
7	Seruyange Moses	Ass. Instructor	Plumbing & pipe fitting
8	Drata Emir	Ass. Instructor	Carpentry & Joinery
9	Obol Christopher	Ass. Instructor	Automotive Mechanics
10	Green Musisi	Ass. Instructor	Fitting/Maching
11	Kyeyune Henry	Ag.Asst. Supplies Officer	Administration
12	Nabukenya Zam	Store Assistant	Administration
13	Mutange Cainan	Plumber	Plumbing & pipe fitting
14	Opoka Joel	Painter	Painting & Decoraton
15	Mugwanya Godffrey	Welder	Welding & Fabrication
16	Ssematimba David	Welder	Welding & Fabrication
17	Wandera Pascal	Carpenter	Carpentry & Joinery
18	Nsubuga Michael	Carpenter	Carpentry & Joinery
19	Galbuzi Moses	Mechanics	Automotive Mechanics
20	Sekitoleko Joseph	Mechanics	Automotive Mechanics
21	Gyoga Muhamad	Carpenter	Carpentry & Joinery
22	Kasirye Paul	Carpenter	Carpentry & Joinery
23	Okello John	Electrician	Electrical General
24	Akullo Grace	Store Assistant	Automotive Mechanics
25	Mwesigye Ben	Workshop Attendant	Brick/Blocklaying
26	Kaggwa Ben	Carpenter	Carpentry & Joinery
27	Ginube John	Gate Keeper	Administration

4 臨時職員・管理要員

No.	氏名	職位	科
1	Nakitende Hasifa	Copy Typist	Administration
2	Cassim Fatuma	Librarian	Administration
3	Gwaidhi Haruna	Driver	Administration
4	Lubega Godfrey	Driver	Administration
5	Kayondo Maria	First Aider	Administration
6	Boosa Peter	Night Watchman	Administration
7	Ssozi Richard	Cleaner	Administration
8	Kato Tohomas	Night Watchman	Administration
9	Nalubowa Maria	Cleaner	Administration

# 19. インカムジェネレーション活動実績

インカムジェネレーション活動実績

2001年10月末現在  
Uganda Shilling(1Ush= ¥0.07)

年月	各科のインカム取入									年間合計
	管理部門	電子科	電気科	機械科	自動車科	木工科	板金科	溶接科	合計	
Oct.98		161,000	5,000	337,000	224,000		816,000	120,000	1,663,000	
Nov.98		35,000	337,000	854,400	130,000		183,000	271,950	1,811,350	
Dec.98	500,000	75,000	337,000	192,000	170,000		191,200	650,400	2,115,600	
Jan.99	322,000	172,000	325,000	270,000	170,000		218,000	159,650	1,636,650	
Feb.99	487,000	78,000	321,000	1,005,000	275,000		191,400	472,600	2,830,000	
Mar.99	1,836,500	17,000	770,000	430,000	178,000		194,000	443,650	3,869,150	
Apr.99	1,368,400	55,000	528,600	250,000	618,000		276,300	617,000	3,713,300	
May.99	1,472,300	30,000	245,000	529,000	155,000		347,000	1,072,000	3,850,300	
Jun.99	2,093,600	90,000	360,000	90,000	70,000		209,000	1,316,650	4,229,250	25,718,600
Jul.99	60,000	68,000	260,000	476,500	518,000		539,000	1,357,400	3,278,900	
Aug.99	300,000	67,000	165,000	583,000	175,000		343,000	2,216,800	3,849,800	
Sep.99	200,000	0	52,000	219,800	299,000		117,000	904,500	1,792,300	
Oct.99	33,680	0	60,000	280,000	235,500		676,000	1,731,800	3,016,980	
Nov.99	60,000	5,000	0	984,000	984,000		227,000	1,585,000	3,845,000	
Dec.99	300,000	0	0	1,589,000	175,000	1,450,000	382,000	571,600	4,467,600	
Jan.00	0	100,000	0	1,020,000	637,000	230,000	395,000	1,593,600	3,975,600	
Feb.00	0	165,000	300,000	2,626,000	235,000	45,000	305,000	1,205,500	4,881,500	
Mar.00	0	0	0	370,000	270,000	509,000	754,500	2,617,425	4,520,925	
Apr.00	352,800	5,000	0	140,000	386,000	0	265,000	150,000	1,298,800	
May.00	452,000	60,000	853,200	3,796,000	1,235,000	381,300	3,340,000	1,098,400	11,215,900	
Jun.00	294,000	170,000	140,400	1,246,000	1,301,000	0	591,500	2,167,500	5,910,400	52,053,705
Jul.00	309,000	53,000	969,000	2,370,000	689,000	0	358,900	2,791,650	7,540,550	
Aug.00	258,400	180,000	238,880	1,290,000	772,000	318,130	565,600	1,754,000	5,377,010	
Sep.00	872,000	180,000	238,880	2,490,500	1,630,000	214,500	729,700	1,423,300	7,778,880	
Oct.00	666,800	105,000	171,600	1,070,000	1,056,000	148,800	224,000	105,000	3,547,200	
Nov.00	700,000	255,000	281,840	1,630,000	4,500,000	2,074,650	453,000	2,384,500	12,278,990	
Dec.00	0	30,000	1,579,760	1,192,500	505,000	40,000	788,000	1,497,500	5,632,760	
Jan.01	0	0	880,000	1,887,000	625,000	35,000	403,500	326,000	4,156,500	
Feb.01	0	35,000	0	1,757,000	1,594,000	138,000	355,000	514,500	4,393,500	
Mar.01	0	85,000	0	1,485,000	1,334,000	25,000	434,000	331,300	3,694,300	
Apr.01	0	0	0	230,000	560,000	470,000	237,000	440,500	1,937,500	
May.01	0	79,000	25,000	265,000	408,000	80,000	506,000	1,562,500	2,925,500	
Jun.01	0	41,000	135,000	1,192,700	720,000	210,000	332,000	1,025,000	3,655,700	62,918,390
Jul.01	0	70,000	110,000	151,000	479,800	268,000	576,500	532,500	2,187,800	
Aug.01	0	10,800	0	454,000	150,000	100,000	387,000	993,500	2,095,300	
Sep.01	0	0	45,000	454,000	252,000	106,000	503,000	2,127,000	3,487,000	
Oct.01	0	11,000	0	1,658,500	302,500	111,000	168,000	1,521,000	3,772,000	
Total	12,938,480	2,487,800	9,734,160	36,864,900	24,017,800	6,954,380	17,582,100	41,653,175	152,232,795	0

※年間合計はウガンダ会計年度（7月～6月）で区切り算出

20. インカムジェネレーション活動顧客リスト

科	No.	顧客企業名
機械科	1	Adraa (U) Ltd
	2	Ugachick poultry feeds
	3	Monitor Publications
	4	Uganda clays Ltd
	5	Kakira sugar works
	6	Drillcon
	7	H.J.S Engineering works
	8	Nice House of Plastics
	9	Phenix
	10	Roofings (U) Ltd
	11	National Water and Sewage Corporation
	12	Unilever
自動車科	1	Japanese Embassy
	2	Police Department
	3	Ministry of Education and Sports
	4	Spare Motors
	5	Japanese Association in Uganda
	6	Entebe Airport Authority
	7	Uganda Travel Company
木工科	1	JICA JOCV office in Uganda
	2	Japanese Embassy
板金科	1	Decons Engineering and Construction Co
	2	Bultrust Engineering and Construction Co
	3	China Nanjing International
	4	China Jiefang
	5	Mira Investment
	6	Standard Signs
	7	Coronation (U) Ltd
	8	Uganda Fish Packers
	9	Nile Ply
	10	Concorp
	11	Pinoneer Construction
	12	Steel works Co
	13	H.L.Invetments
	14	Multiplex Engineering Co.
	15	Roko Construction
	16	Dott Services
	17	Century Bottling Co.
	18	Fire Masters
溶接科	1	Britania
	2	Hwan Sung
	3	Steel works Co
	4	Mukawano Industries
	5	Masoline
	6	Knight Engineering
	7	Nikom System Ltd
	8	Kampala Pavings
	9	Roko Construction
	10	Zibuku Constructon
	11	Solar Energy
	12	Shell Ugtanda Ltd
	13	Concorp
	14	A..K.Transport
	15	Quality Engineers
	16	B.C.R.Company
	17	Pinoneer Construction
	18	Arua Auto Services
	19	China Jiangshu
	20	M.K.Electowatt
	21	Arab Contractors
	22	Interior Constructon
	23	Muddu Awauhira Enterprise
	24	Total Ugatnda Ltd.

21. プロジェクト経緯表

プロジェクト経緯表

時期	経緯
1965	ウガンダ首相来日時に、我が国に職業訓練センタープロジェクト協力要請。
1968	6 ウガンダ職業訓練センタープロジェクト協定調印
1971	10 訓練開始。 10 分野で専門家派遣。 8名研修員受入。 機材供与 1.7 億円。 機械加工、機械仕上、板金加工、溶接・溶断、電気工事、電気仕上、自動車整備の7コースで約 600 名の訓練を実施。
1974	6 訓練センタープロジェクト終了
1993	プロジェクト方式技術協力要請意図伝達あり。
1994	2 基礎調査団派遣
1994	5 ウガンダ政府より我が国に対しナカワ職業訓練校に係るプロジェクト方式技術協力要請。
	7 事前調査団派遣
1995	7 長期調査団派遣。 協力内容の詳細合意。
	7 無償基本設計調査団派遣。
1997	2 実施協議調査団派遣。 討議議事録 (R/D) 締結。1997 年 5 月から 5 年間にわたる技術協力を実施することで合意。
	5 技術協力開始。
	5 鈴木専門家 (機械) 個別専門家からプロジェクト専門家へ転換。
	5 カウンターパート研修受け入れ (電子、機械、自動車、木工、計 4 名)
	6 高見専門家 (チームリーダー)、川島専門家 (訓練管理) 派遣。
	7 井上調整員派遣。
	7 無償基本設計概要説明調査団派遣
	8 堀内ケニア大使訪問。 前校長本省に転任。 前副校長が代理校長に就任。
	9 第 2 次カウンターパート研修員受け入れ (電気、機械、板金、溶接、計 4 名)、第三国研修員派遣 (機械、計 1 名)
	10 飯田、藤田、宝来、楨専門家派遣。
	11 第 1 回 Joint Coordinating Committee 開催。
	12 佐々木、平川専門家派遣。 プロジェクト専門家 10 名揃う。
	12 JICA 黒河内参与訪問。
	12 カウンターパート 19 名計画中 19 名着任。
1998	2 無償協力による建物引渡し。
	3 4 科 (自動車、溶接、機械、電気) 無償機材第 1 回据え付け
	3 計画打合調査団派遣
	3 第 1 期生入試実施。 応募者 124 名。 (電気 31 名、機械 18 名、自動車 42 名、溶接 8 名)
	4 機械、電気、溶接、自動車の 4 科養成訓練開始。 生徒は以下のとおり。電気 20 名 (9) 機械 20 名 (9) 自動車 20 (20) 溶接 18 名 (0) 計 78 名 (38) 括弧内は夜間

	4	カウンターパート研修員受け入れ（電子、自動車計2名）
	5	無償資金協力 E/N 署名。
	6	新次官就任 Mr. J.M. Opolot
	7	労働社会福祉省改名し、ジェンダー・労働・社会開発省 Ministry of Gender, Labor and Social Development に。 新大臣就任 Mrs. Hajjati Janat Mukwaya
	8	ナカワ職業訓練校の所管省庁がジェンダー・労働・社会開発省から教育・スポーツ省に変更となる。これに伴い DIT も教育・スポーツ省に移管。
	9	徒弟訓練の募集活動するも、反応が悪い。
	10	上田短期専門家（訓練指導技法）派遣
	10	カウンターパート研修員受け入れ（電子、機械、自動車、木工計4名）
	10	無償施設建設工事開始。
	11	インカムジェネレーション委員会活動開始
	12	溶接機搬入（8ヶ月遅れ。この間アーク溶接訓練できず）
1999	1	カウンターパート研修員受け入れ（管理部門計1名）
	2	徒弟訓練ニーズ調査実施。 20社中希望は木工1社のみ。
	2	3科（電子、板金、木工）機材到着。
	3	第2回 Joint Coordinating Committee 開催
	3	4科2期生応募電気 51、機械 35、自動車 49、溶接 7 計 142名 3科1期生応募電子 59、木工 7、板金 13 計 79名 合計 221名応募
	4	カウンターパート研修員受け入れ。 電子2名、木工2名、計4名。
	5	安全対策講習会実施（成瀬ケニア事務所次長）
	5	電子、木工、板金科訓練開始 訓練生数電子 16 (32)、木工 6 (1)、板金 7(6)計 29 (39)名 括弧内は夜間 電気、機械、自動車、溶接第2期開始 訓練生数電気 18(35)、機械 18(18)、自動車 21(29)、溶接 19(0)計 76(82)名 括弧内は夜間 1999年度訓練生7科合計 105(121)名 1998年度訓練生4科合計 73 (39)名
	5	野沢専門家（機械）派遣 鈴木専門家（機械）帰国
	6	井上調整員帰国 久保田短期専門家（塗装）派遣
	6	カウンターパートは計画 42名中 41名充足。
	7	定員割れの木工科は募集継続。 その結果、訓練生数は6名から8名に増加した。
	7	木村調整員派遣。
	8	川島専門家（訓練管理）帰国。
	9	久保田短期専門家（塗装）帰国。
	9	カウンターパートは計画 42名に対し 43名充足。 他に訓練管理部門に3名。

	9	向上訓練：電子1コース1名、電気3コース4名、機械2コース3名、自動車6コース84名、板金3コース6名計15コース98名訓練中。
	9	カウンターパート研修員受け入れ。自動車1名集団研修。電気、板金、溶接各1名。溶接、機械各1名第三国研修（エジプト）。
	9	成瀬 JICA ケニア事務所次長による安全対策講習会実施。
	10	後藤専門家（溶接）派遣。
	11	上田短期専門家（指導技法）派遣。
	11	牧野調整員派遣
	11	木村短期調整員帰国
	12	訓練促進委員会開催。年間訓練計画策定。
2000	1	巡回指導調査団派遣 PDM 改訂。徒弟訓練の扱いを明確にする（訓練生募集の責任は DIT にあるので、DIT が訓練生を確保し、依頼があった場合に対応すること）、学校運営体制の確立、委員会活動の実施、インカムジェネレーション活動の実施を「活動」に追加。
	1	カウンターパート研修員受け入れ（監督者）1名。
	1	指導法セミナー実施（他校職員対象）
	1	訓練生管理委員会開催。2001 年度新卒採用計画打合せ（募集広告、入試試験問題）。
	1	校外活動委員会開催。2001 年度養成コース採用計画。卒業式準備委員会結成。ナカワ校創立 30 周年記念式典準備委員会結成。2001 年度版概要作成。校案内作成。
	2	上田短期専門家（指導技法）帰国。
	2	ジョルダン職業訓練技術訓練学院との技術交換実施（ウガンダ 3 名、日本 2 名参加）。
	3	竹野専門家（自動車）派遣
	3	佐藤専門家（電子・電気）派遣
	3	藤田専門家（電気）帰国
	3	佐々木専門家（自動車）帰国
	3	1 期生卒業。 電気 18、機械 21、自動車 19、溶接 16、計 74 名
	3	入学試験結果 応募者数； 電子 77、電気 62、機械 39、自動車 62、木工 17、板金 35、溶接 25、計 318 名 合格者数：電子 21、電気 21、機械 21、自動車 21、木工 15、板金 20、溶接 20、計 143 名 競争倍率：2.2 倍
	3	UNIDO と協議。零細、小企業主育成プランにつき打合せ。
	4	雇用能力開発機構理事長の訓練校訪問。
	4	木工科長が公金横領のため、退職処分となった。
	4	安全衛生委員会開催。事故報告書の徹底。安全衛生チェックリストの整備。年間安全衛生行動計画策定。

	5	高見チームリーダー帰国
	5	坂本チームリーダー派遣
	5	比喜短期専門家（配管）派遣
	6	カウンターパート研修員受け入れ（職業訓練管理）
	6	校運営委員会開催。5月のインカム活動収入を評価。
	6	安全衛生委員会開催。年間安全衛生訓練計画。月間安全スローガン。優秀安全衛生職場表彰制度。
	7	教育・スポーツ省よりナカワ職業訓練校職員への辞令交付があり、組織位置付けが明確化した。
	7	卒業生就職状況（4月末現在の数字を7月に集計） 電気 17、機械 13、自動車 12、溶接 12 計 54名（就職率 73%）
	7	全ての教材のパソコン作成化。
	7	校運営委員会開催。6月のインカム活動収入評価。
	7	機材管理委員会開催。
	8	インカムジェネレーション活動の修正。土曜日午後、日曜日のインカムジェネレーション活動の禁止。使途の明確化。職員給与予算確保。
	8	Master Craftman Program を UNIDO の依頼により金属加工、電気、電子、木工の4職種で実施。（55名参加）
	8	コンピューター室設置。
	9	校運営委員会開催。7月のインカム活動収入評価。
	9	校外活動委員会開催。ウガンダ製造業者協会国際貿易ショー出展計画打合せ。
	10	訓練生管理委員会開催。訓練生に関する情報のデータベース化。
	10	カウンターパート研修員受け入れ（溶接、電気、配管、計3名）
	10	カウンターパート第三国研修（溶接、熱処理技術系2名）エジプト
	10	笹川グローバル 2000 要請による農産物加工機材向上訓練実施（9名）。
	10	ウガンダ製造業者協会国際貿易ショーの JETRO ブースに出展。
	10	カウンターパート主体の新委員会システム開始。
	10	木工科機材 6ヶ月遅れて到着するが、瑕疵が生じた。
	10	山川専門家（木工）派遣
	10	宝来専門家（木工）帰国
	10	飯田専門家（板金）帰国
	11	菊池短期専門家（視聴覚技法）派遣
	11	林短期専門家（冷凍空調）派遣。
	12	平川専門家（電子）帰国
2001	1	図書室設置
	1	カウンターパート研修員（電子1名）受入。第三研修国（ケニア）。
	2	視聴覚教材作成セミナー実施（20名参加）
	3	UNIDO による C/P へのビジネスマネージメント指導実施。



3	第4回 Joint Committee 開催
3	第2期生(4科)、第1期生(3科)卒業
3	2001年度選考 応募者数：自動車 94、電子 84、電気 80、板金 35、機械 26、溶接 20、 木工 19、計 358 名 合格者：自動車 16、電子 16、電気 16、板金、16、機械 16、溶接 16、 木工 16、計 112 名
3	星野短期専門家(ネットワークシステム)派遣
3	近藤短期専門家(訓練管理)派遣
3	小池短期専門家(訓練管理)派遣、帰国
4	星野、近藤短期専門家帰国
4	カウンターパート研修員(木工、電子、自動車、計3名)受け入れ
4	イントラネット構築。
4	インカムジェネレーション活動規定の改定。
5	校運営委員会開催。 インカム活動のイントラネットによるモニタリ ングを導入。
6	カーター元米国大統領の訓練校訪問。
7	2000年度卒業生追跡調査及び向上訓練ニーズ調査の実施。
8	第1回産業委員会開催。
8	教材、機工具管理の為にデータベース化。
10	カウンターパート研修員(電気、機械、溶接、板金、計4名)受入。
10	ウガンダ製造業者協会国際貿易ショーの JETRO ブースに出展。
10	終了時評価調査団派遣。

電子科フォローアップ期間活動計画表 (2002/6~2003/5)

Plan

PDM活動	スケジュール(2002)												(2003)		備考
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5			
訓練に適した機材を選定し、据え付ける。 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II															アナログ回路IIは、オペアンプ(オペアンプ回路をIC化した)もので、増幅作用のほか、さまざまなアナログ信号処理(加算、減算、微分、積分など)を行う回路)の基本動作から応用実用回路の設計を理解する。  デジタル回路IIは1チップマイコンICを使用した制御回路の設計及び機械語を使用したプログラム作成を習得することにより組込型制御システムの構築を理解する。  コンピュータシステムIIは、コンピュータのハードウェア(バス構造)や拡張方法、ネットワーク構築など)およびソフトウェア(VB、C言語、Linuxなどによるシステム構築など)について理解する。
訓練機材の適切な保守・管理を行う 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II															
職業訓練指導の方法を評価し、改善する。 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II															
機材を活用した実習を導入する。 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II															
職業訓練に関する指導用、訓練用教材を作成する。 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II (視聴覚教材、訓練教材等)															
シラバス、カリキュラムを作成し、改訂する。 養成訓練 (夜間訓練含む) 向上訓練															
教材の選択と作成を行う。 電子工学 (アナログ) II 電子工学 (デジタル) II コンピュータシステム II (参考文献、図書、テキスト等)															
訓練コース内容の評価を行う。 養成訓練 (夜間訓練含む) 向上訓練															
第三国研修計画															



自動車科フォローアップ期間活動計画表 (2002/6~2003/5)

PDM活動	Plan												備 考			
	Schedule(2002)											(2003)				
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5				
訓練に適した機材を選定し、据え付ける。 自動車電気装置実習 II (EFIガソリン・ディーゼルエンジン教材車等) 自動車シャシII (オートマチックトランスミッション等)															自動車電気装置IIは、充電システム、オルタネーター、配線関係、アクセサリの中で電子制御式エンジンに用いられている装置全体を組み込む構造となっている。	
訓練機材の適切な保守・管理を行う 自動車電気装置実習 II (EFIガソリン・ディーゼルエンジン教材車等) 自動車シャシII (オートマチックトランスミッション等)																
職業訓練指導の方法を評価し、改善する。 自動車電気装置実習 II 自動車シャシII																
機材を活用した実習を導入する。 自動車電気装置実習 II 自動車シャシII																
職業訓練に関する指導用、訓練用教材を作成する。 自動車電気装置実習 II (視聴覚教材、訓練教材等) 自動車シャシII																シャシIIはステアリング、ブレーキ、4WD、ボディー、ホイールアライメント、ATの構成となっている。
シラバス、カリキュラムを作成し、改訂する。 養成訓練 (夜間訓練含む) 向上訓練																
教材の選択と作成を行う。 (参考文献、図書、テキスト等) 自動車電気装置実習 II 自動車シャシII																
訓練コース内容の評価を行う。 養成訓練 (夜間訓練含む) 向上訓練																
第三国研修計画																この2科目は、学科、実技含めたものである。